

2021

ビューティスペシャリスト科 シラバス



学校法人京都中央学院

YIC京都ビューティ専門学校

シラバスとは

シラバスとは講義概要であり授業全体の計画書のことです。授業の目標・内容・参考図書・成績評価の方法などが記され、皆さんが授業内や授業外で学修を行うための指針を示すものです。

教員は、この指針に従って授業を行うことになります。したがってシラバスは授業計画を学生と教員との間で共有する、「契約書」に近い位置づけのものです。シラバスに記載された目標を達成するために、教員は授業を通して学生である皆さんに知識と技術を習得させる義務を負います。逆に皆さんは授業に出席する義務を負うことになります。

また広い意味では、本校が地域社会に対して本校の教育の質を担保するものでもあります。

実際に授業が行われるにあたって、学生や教員があらかじめ準備したり、従うべき事項等を共有する文書となります。授業で行われる内容があらかじめ記載されていますので、学生は授業に臨む際に前もって準備を行うことができますし、記載されている評価方法に向けての学修などを行うこともできます。

シラバスを作成する過程で、教員が自らの行う授業の内容、評価方法などの具体的構造を見直すことができ、自分の授業を見直す良い機会になります。

皆さんは、このシラバスを活用して、悔いのない学生生活を送っていただくようお願いします。

別表2

ビューティスペシャリスト科 教育課程

区 分			履 修 科 目 名	1 年		2 年		合 計	
				単位	時間	単位	時間	単位	時間
必修科目	ビューティ基礎	講義	人 体 の 構 造 及 び 機 能	1	30			1	30
			皮 膚 科 学	1	30			1	30
			香 粧 品 化 学			1	30	1	30
			色 彩 学	1	30			1	30
			ブ ラ イ ダ ル 概 論	1	30			1	30
		ア ロ マ テ ラ ビ ー 基 礎	2	60			2	60	
		実習	ネ イ ル 基 礎	4	120			4	120
			メ イ ク ア ッ プ 基 礎	4	120			4	120
			ヘ ア ア レ ン ジ 基 礎	1	30			1	30
	着 付 け				2	60	2	60	
	キャリア基礎力	講義	エ ス テ 基 礎	3	90			3	90
ビ ジ ネ ス と 仕 事 の 実 践					1	30	1	30	
サ ー ビ ス 接 遇				1	30			1	30
必須科目計				19	570	4	120	23	690
選択必須科目	メイク分野	講義 実習	メ イ ク ア ッ プ I	4	120			4	120
			メ イ ク ア ッ プ II			4	120	4	120
			イ メ ー ジ メ イ ク	2	60			2	60
			イ メ ー ジ メ イ ク 応 用	2	60			2	60
			ブ ラ イ タ ル メ イ ク	2	60			2	60
			撮 影 メ イ ク			2	60	2	60
			コ ス メ テ ィ ッ ク 販 売 実 習			2	60	2	60
			メ イ ク セ ラ ビ ー I	1	30			1	30
			メ イ ク セ ラ ビ ー II			1	30	1	30
	ネイル分野	講義 実習	メ イ ク セ ラ ビ ー III			1	30	1	30
			ネ イ ル I	4	120			4	120
			ネ イ ル II	4	120			4	120
			ネ イ ル III	2	60			2	60
			ネ イ ル IV	2	60			2	60
			ネ イ ル V			4	120	4	120
	エステ分野	講義 実習	ネ イ ル VI			4	120	4	120
			ネ イ ル VII			2	60	2	60
			解 剖 生 理 学 I	2	60			2	60
			解 剖 生 理 学 II			2	60	2	60
	トータルビューティ分野	講義 実習	エ ス テ (ボ デ ィ)	8	240			8	240
			エ ス テ (フ ェ イ シ ャ ル)			8	240	8	240
			ア ロ マ テ ラ ビ ー I			1	30	1	30
			パ ー ソ ナ ル カ ラ ー			1	30	1	30
			ヘ ア ア レ ン ジ I			1	30	1	30
			メ イ ク ア ッ プ 応 用			2	60	2	60
ト ー タ ル コ ー デ ィ ネ ー ト					1	30	1	30	
選択必須科目				33	990	36	1,080	69	2,070
選択科目	※トータルビューティ分野	講義 実習	メ イ ク ア ッ プ 特 論 I			4	120	4	120
			メ イ ク ア ッ プ 特 論 II			4	120	4	120
			ネ イ ル 特 論 I			4	120	4	120
			ネ イ ル 特 論 II			4	120	4	120
			エ ス テ 特 論 I			4	120	4	120
			エ ス テ 特 論 II			4	120	4	120
	※ビジネス基礎力分野	講義 実技 実習 研修	パ ー ツ ケ ア 実 習 I			1	30	1	30
			サ ー ビ ス 接 遇 特 論	1	30			1	30
			基 本 I T 技 術			1	30	1	30
			キ ャ リ ア デ ザ イン	1	30			1	30
			プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン			1	30	1	30
			硬 筆 書 写	1	30			1	30
			論 理 的 思 考 力 基 礎	1	30			1	30
			ビ ジ ネ ス 英 語			1	30	1	30
			ビ ジ ネ ス マ ネ ジ メ ン ト			1	30	1	30
			イン タ ー ン シ ッ プ I			1	30	1	30
			イン タ ー ン シ ッ プ II			1	30	1	30
			サ ロ ン 運 営 I			2	60	2	60
			サ ロ ン 運 営 II			2	60	2	60
			サ ロ ン 運 営 III			2	60	2	60
			イ ベ ン ト プ ロ デ ュ ー ス	1	30			1	30
			企 業 研 究			1	30	1	30
企 業 研 修			1	30	1	30			
ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 I	1	30	1	30	2	60			
ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 II			1	30	1	30			
選択科目計				6	180	41	1,230	47	1,410
総計(必修＋選択必須＋選択)				58	1,740	81	2,430	139	4,170

卒業要件資格

・共通 ： JNA日本ネイリスト検定3級 JMA日本メイクアップ技術検定3級 アロマテラピー検定2級

・共通エステティック分野選択者 ： 国際エステティック連盟 (INFA) ボディパスポート試験

・メイクアップアドバイザー分野選択者 ： JMA日本メイクアップ技術検定2級 メイクセラピー検定3級

・ネイリスト分野選択者 ： JMA日本ネイリスト検定2級 JNAジェルネイル検定初級

※単位:90分×15週の座学(授業)または実習をもって1単位とする。ただし、校外学習などこれによりがたい場合は別途換算する。

※卒業の要件:必修科目23単位(690時間)及び選択必須科目と選択科目合わせて37単位(1110時間)以上、計60単位(1800時間)以上の履修

科目名	人体の構造及び機能		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	座学・グループワーク・発表形式を取り入れた授業 チェックテストを実施し、学習した知識・技術の習得状況を確認する 学習の仕方を学び活用する 適宜視覚教材を利用							
授業の一般目標	・解剖生理学の基礎を学び習得する ・健康や美しさを維持するための基本知識を習得する							
受講条件	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行なわない。本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	YIC京都オリジナル教材							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	解剖生理学に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で解剖生理学について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	導入 美しさと健康	座学の学習の進め方を学ぶ 解剖生理学について学ぶ 解剖生理学を学ぶことでどんな事が解決できるかを知る						
第2回	細胞 組織・器官・系統	細胞とは何かを学ぶ 組織・器官・系統とは何かを学ぶ						
第3回	骨格系統 1 骨格系統 2	骨の名称 働き 骨粗しょう症について学ぶ 骨と関節の構造と役割について学ぶ						
第4回	筋肉 1 筋肉 2	筋肉の構造と働きを学ぶ マッサージへの影響を学ぶ 筋肉の名称と場所を学ぶ(起始・停止)						
第5回	消化器 1 消化器 2	消化器の構造を学ぶ ・消化作用 消化器について学ぶ ・胃・小腸・大腸・肝臓・すい臓						
第6回	栄養学	3大栄養素、ビタミン、ミネラル 基礎代謝 カロリー グループワーク						
第7回	栄養素	各栄養素についてグループ発表						
第8回	呼吸器	呼吸器系について学ぶ ・腹式呼吸と胸式呼吸						
第9回	循環器 1	リンパについて学ぶ ・リンパとは何か ・リンパの流れ						
第10回	循環器 2	循環器について学ぶ ・血液の成分、働き、循環経路 ・静脈・動脈・毛細血管 ・血圧脈拍						
第11回	排泄器	排泄器について学ぶ 腎臓、尿管、尿の生成について学ぶ 腎臓の病気を知る						
第12回	神経系	神経系の基本知識を学ぶ ・大脳と神経の伝導 ・自律神経について学ぶ						
第13回	内分泌	ホルモンについて学ぶ ・作用・分泌のコントロール・内分泌腺の種類						
第14回	期末テスト対策	今までの内容を振り返り、見直し						
第15回	期末テスト	期末試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 期末試験80%、中間試験20%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点～70点
授業態度			○				10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	荒木 真衣			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/araki/			

科目名	皮膚科学	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	皮膚およびその附属器官の構造、皮膚の循環系と血管の解剖と生理、皮膚と附属器官の一般的生理機能、皮膚と附属器官の保健ならびに疾病の概要等について学習する。							
授業の一般目標	皮膚は身体の表面を覆い、絶えず外部環境からの刺激にさらされている。そのため、内部諸臓器の保護のみでなく、外界からの情報の感知、身体適応など重要で多彩な役割を果たしている。学生が将来美容界において指導的な役割を担うため、美と健康に関わる皮膚の科学的な正しい知識と技術を習得し、これを活用し実践する能力を身につける。							
受講条件	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	YIC京都オリジナル教材							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	皮膚科学に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で皮膚科学について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	I 皮膚の概要 (1)	①皮膚の役目 ②皮膚の表面 ③皮膚の断面						
第2回	I 皮膚の構造 (2)	④紫外線が皮膚の与える影響						
第3回	I 皮膚の構造 (1)	①表皮 ②表皮の役目						
第4回	I 皮膚の構造 (2)	③真皮 ④真皮の役目						
第5回	I 皮膚の構造 (3)	⑤皮下組織 ⑥皮下組織の役目						
第6回	II 皮膚附属器官の構造 (1)	①汗腺 ②皮脂腺 ③毛 ④爪						
第7回	II 皮膚付属器官の構造 (2)	①汗腺 ②皮脂腺 ③毛 ④爪						
第8回	III 皮膚の循環系と神経系	①皮膚の血管 ②皮膚のリンパ管 ③皮膚の神経						
第9回	IV 皮膚と附属器官の生理機能 (1)	皮膚の生理機能 7つ						
第10回	IV 皮膚と附属器官の生理機能 (2)	皮膚の生理機能 7つ						
第11回	V 皮膚科学まとめ (1)	グループワーク						
第12回	V 皮膚科学まとめ (2)	グループワーク						
第13回	V 皮膚科学まとめ (3)	グループワーク						
第14回	前期学習まとめ	質疑応答、演習試験その他						
第15回	期末試験	期末試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上。 期末試験70%、提出物10%、グループワーク発表10%、中間試験10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点～70点
授業態度			○				10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	荒木 真衣			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/araki/			

科目名	化粧品化学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	化粧品(化粧品)は、人の皮膚の保健・衛生および美容・美化を目的として用いられるものである。人間の美と健康に関わる職業人として、化粧品の科学的基礎知識を学ぶ。化粧品の安全性、原料や性状、使用目的を理解しお客様のニーズに合わせてご提案できるための知識を身に付ける							
授業の一般目標	(1)日本化粧品検定2級取得 (2)化粧品の中身や働きを理解し、目的に合った使い方が出来るようになる。 (3)化粧品の基礎知識を習得するとともに、ビューティの専門家として化粧品の選び方、メイク方法、美肌に導くプロフェッショナルを目指す。							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行わない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	日本化粧品検定2級・3級対策テキスト・問題集+YIC京都オリジナル教材							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 化粧品の目的に合った使い方を説明できる。 2 化粧品の中身や働きを説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	化粧品に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で化粧品について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	オリエンテーション		授業のルール・検定について・復習・知識チェック					
第2回	化粧品の原料と基礎知識		化粧品の原料・界面活性剤について					
第3回	化粧品基礎①		スキンケアアイテムの原料・成分について学ぶ					
第4回	化粧品基礎②		メイクアップ料・ヘアケア・ボディケアの基礎知識・原料・成分について			小テスト		
第5回	化粧品基礎③		ヘアケア・ボディケアの基礎知識・成分について					
第6回	皮膚・肌について知ろう		皮膚の構造・機能について復習					
第7回	肌悩みの原因について		化粧品と肌トラブル・肌悩みの原因とお手入れ方法について					
第8回	肌悩みに応じた化粧品の使い方①		乾燥・毛穴・ニキビ					
第9回	肌悩みに応じた化粧品の使い方②		シミ・くすみ・クマ・しわ・たるみ			小テスト		
第10回	美肌・美ボディ生活を送るには①		肌を劣化させるさまざまな要因					
第11回	美肌・美ボディ生活を送るには②		紫外線が肌に与える影響・UVケア化粧品					
第12回	化粧品にまつわるルール①		化粧品・薬用化粧品・医薬部外品について					
第13回	化粧品にまつわるルール②		広告やPR・化粧品を安全に使うために					
第14回	2級試験・期末試験対策		2級対策・復習問題					
第15回	期末テスト		期末テスト実施					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 (1)授業内で小テストを行う (2)課題・レポートの提出をする (3)期末試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率80%に満たないものには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				20	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート				○			5	良(B):79点～70点
授業態度			○				5	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福本 真弓			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukumoto/			

科目名	色彩学	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	授業は座学を中心とする。 理解を確認するために、適宜チェックテストを行い、知識を確実なものとするようにする。 また、理解しやすいよう、適宜視覚教材を利用する。							
授業の一般目標	パーソナルカラリスト検定3級取得 色の持つ、文化的・感覚的な力を理解し、メイク・ネイル・トータルコーディネート等の実践に生かせる知識を習得する。							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	パーソナルカラリスト検定3級公式テキスト							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	色彩に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で色彩について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	色彩学とは	導入						
第2回	四季の自然を表わす色	春／夏／秋／冬に関わる色について						
第3回	日本の色の歴史	特徴的な伝統色						
第4回	色と生活	周りを取り巻く様々な色、衣食住						
第5回	色の種類	赤・橙・黄・緑・青・紫・白黒・グレー系統						
第6回	色の仕組み	物体色と光源色、無彩色と有彩色						
第7回	CUS表色系	カラーアンダートーンシステム						
第8回	色の三属性と対比現象	明度・彩度・色相						
第9回	色の感情効果	明度・彩度・色相に関する心理効果						
第10回	CUS配色効果	アンダートーンとは						
第11回	ファッション概論	基本的な配色テクニック						
第12回	ブライダルと色彩	ウエディングと配色調和						
第13回	パーソナルカラー	肌の色のしくみ						
第14回	パーソナルカラーの特徴	人の特徴によるアンダートーン パーソナルカラー						
第15回	検定対策	パーソナルカラー 3級検定試験対策						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 アロマセラピー検定2級を卒業要件とする (1)授業内で小テストを行う (2)課題・レポート提出をする (4)期末試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率80%に満たないものには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				10	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			15	良(B): 79点～70点
授業態度			○				5	可(D): 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ブライダル概論		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	現在の日本におけるブライダル事情の概要を学び、ブライダルとは何か？どんな意味・意義があるのか？そこで従事する人間としてのモラルなどを学ぶ。冠婚葬祭の一般常識を身に付け、サービスマナーなどを日常生活の中で活かせるように学習する。							
授業の一般目標	社会人としての一般常識として冠婚葬祭の知識を身に付け、人生の通過儀礼を滞りなく実行でき、業界で働くためのモラルを身に付ける。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	YIC京都オリジナル教材							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 冠婚葬祭とは何かについて説明できる。 2. ブライダル業界の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	ブライダル業界に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で、接客サービス業に携わるサービスマナーを身に付ける事ができる。							
□ 技能・表現の観点	社会人としてのブライダルにおける一般常識を理解した上で、結婚式を控えたお客様とも接客ができる。							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	ブライダルとは		ブライダル概論の必要性について					
第2回	ドレスの種類		ドレスのラインを覚えよう					
第3回	結婚式の用語1		六輝、忌み言葉、通常使用される業界での用語					
第4回	結婚式の用語2		六輝、忌み言葉、通常使用される業界での用語					
第5回	ウェディングプランナーとは		プランナーの担う具体的な仕事					
第6回	ホテルウェディング		ホテルで行われるウェディングについて					
第7回	ゲストハウスウェディング		ゲストハウスハウスとは？そのウェディングの特徴					
第8回	挙式の種類		挙式の様々なスタイル					
第9回	和装・和婚		和装の花嫁、和婚スタイルについて					
第10回	結婚式のマナー		結婚式に招かれた時のマナーについて					
第11回	コンセプトウェディング		テーマに合わせてプランニングをしてみよう					
第12回	コンセプトウェディング		テーマに合わせてプランニングをしてみよう					
第13回	ABC検定対策		復習と検定対策					
第14回	ABC検定試験		ABC検定試験実施					
第15回	期末試験		1から14までの回で学んだ内容から					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 ①授業内で小テストを行う ②課題・レポート提出をする ③期末試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率80%に満たないものには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		70	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				10	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点～70点
授業態度	○		◎	◎			10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	アロマテラピー基礎		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	授業は座学を中心とする。 理解を確認するために、適宜チェックテストを行い、知識を確実なものとするようにする。 また、理解しやすいよう、適宜視覚教材を利用する。							
授業の一般目標	身体への生理作用を理解し、実践に役立つ知識を習得する。身体への生理作用を理解し、実践に役立つ知識を習得する アロマテラピー検定1級取得を目指す。							
受講条件	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行なわない。本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	アロマテラピー検定公式テキスト2級1級							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	精油に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で精油の役割、効果効能について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容		備 考			
第1週	香りに親しむ		導入・イメージング					
第2週	アロマテラピーのある暮らし		安全の為の注意 芳香浴法・沐浴法・吸入法					
第3週	精油のプロフィール 精油の基礎知識		精油とは・芳香物質 ジュニパーベリー・ティートリー・オレンジスイート					
第4週	精油のプロフィール 精油の基礎知識		イランイラン・パチュリ・ペチパー メリッサ・レモングラス 精油製造法					
第5週	精油のプロフィール 精油の基礎知識		ローズアブソリュート・ローズオットー 心身に作用する経路・精油の作用 ジャスミン・ベンゾイン・グレープフルーツ					
第6週	精油のプロフィール アロマテラピーの歴史		ゼラニウム・ユーカリ・ペパーミント・クラリセージ 先史時代～古代					
第7週	精油のプロフィール アロマテラピーの歴史		サンダルウッド・ミルラ・ベンゾイン フランキンセンス・サイプレス 中世～近代					
第8週	精油のプロフィール アロマテラピーの歴史		ローズマリー・ベルガモット・スイートマージョラム ネロリ・ブラックペッパー 現代					
第9週	精油のプロフィール		ラベンダー・レモン					
第10週	アロマテラピーと環境		植物とともに生きてきた私たちの歴史 いま、地球が抱える難題 一人ひとりができることから ハーブについて					
第11週	アロマテラピーの楽しみ方		アロマテラピーの基材					
第12週	アロマテラピーに関係する法律		アロマテラピーの法律問題					
第13週	アロマテラピーのメカニズムと健康学		脳のしくみと働き 嗅覚の生理メカニズム・大脳辺縁系とアロマテラピー					
第14週	アロマテラピーのメカニズムと健康学		精油成分の薬理作用 ホームケアの活用例 アロマテラピーの健康学					
第15週	検定対策		模擬テスト					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 アロマテラピー検定2級を卒業要件とする (1)授業内で小テストを行う (2)課題・レポート提出をする (3)期末試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率80%に満たないものには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B): 79点～70点
授業態度			○				10	可(D): 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ネイル基礎		単位数	4	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)			ネイル基礎知識・ネイルケア・カラーリング・検定アート 検定3級対策					
授業の一般目標			ベーシックなネイルの技能と知識の基礎を習得 JNECネイリスト技能検定3級受験					
受講条件			出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。					
事前学習について (テキスト・参考書等)			JNAテクニカルシステム(ベーシック)					
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点			1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。					
□ 思考・判断の観点			授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。					
□ 関心・意欲の観点			ネイルに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。					
□ 態度の観点			日常生活の中でネイルについて主体的に考えることができる。					
□ 技能・表現の観点			ネイルケア・カラーリング・アート(検定課題)ができる					
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授業内容			備考		
第1回	初回授業説明 理論		教材配布・検品・テーブルセッティング ネイル概論					
第2回	ネイルケア基礎		消毒・ファイル・キューティクルクリーン ネイル概論					
第3回	ネイルケア基礎		消毒・ファイル・キューティクルクリーン ネイル概論					
第4回	ネイルケア基礎		消毒・ファイル・キューティクルクリーン ネイル概論					
第5回	ネイルケア基礎		ネイルケア・カラーリング・カラーオフ ネイル概論					
第6回	ネイルケア基礎		ネイルケア・カラーリング・カラーオフ 小テスト					
第7回	ネイルケア基礎		ネイルアート・3級筆記対策					
第8回	ネイルケア基礎		ネイルケア・カラーリング・カラーオフ ネイル概論					
第9回	ネイルケア基礎		ネイルアート					
第10回	検定対策		3級対策					
第11回	検定対策		3級対策・模擬検定					
第12回	検定対策		3級対策・合同模擬検定					
第13回	ネイルケア		3級対策					
第14回	ネイルケア		ネイルアート					
第15回	ネイルケア		期末テスト					
成績評価方法								
期末試験得点50%＋小テスト模擬テスト課題40%＋検定合格10% ネイル検定3級取得を卒業要件とする (1)期末試験を実施する (2)授業内で小テスト・模擬テストを実施する (3)課題・作品の提出する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率80%に満たないものには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点～70点
授業態度			○				10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	メイクアップ基礎		単位数	4	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	JMA検定教科書に沿い、お客様にとって心地よいメイクの施し方を学習する。 メイクの技術の他に、道具の扱い方・身だしなみ・声かけ等も習得し、メイクアップの楽しさを学ぶ。							
授業の一般目標	JMA3級取得・セルフメイク検定取得 皮膚科学理論及びスキンケア理論、色彩理論、メイクアップベーシック知識の習得。 スキンケアからベースメイクのテクニックの習得。							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	メイクアップ技術検定試験JMA公式テキスト 3級・2級							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	メイクに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中でメイクについて主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点	1 ポイントクレンジング～ベースメイクが30分でできる。 2セルフメイクで基本バランスにメイクができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1週	オリエンテーション・化粧品の説明		授業のルールについて・化粧品検品・検定概要について					
第2週	セッティング・スキンケア基礎		セッティング・セルフメイク検定対策					
第3週	ベースメイク実習		セルフメイク検定対策 ベースメイク・ポイントメイク実習					
第4週	セルフメイク検定模擬試験		セルフメイク検定模擬試験					
第5週	セルフメイク検定		セルフメイク検定実施			5月20日		
第6週	マッサージ・タイム計測		コットンパック・乳液マッサージ ポイントクレンジング～ベースメイクタイム計測			仕上がりチェック		
第7週	タイム計測・チークのバリエーション		ポイントクレンジング～ベースメイクタイム計測・チークのバリエーションについて					
第8週	タイム計測・アイシャドウ基礎		ポイントクレンジング～ベースメイクタイム計測・アイシャドウ実習					
第9週	タイム計測・リップ基礎		ポイントクレンジング～ベースメイクタイム計測・リップ実習					
第10週	JMA3級試験		JMA3級試験実施・百貨店見学			6月24日		
第11週	フルメイク実習①		宝塚メイク実習					
第12週	フルメイク実習②		リクルートメイク実習					
第13週	フルメイク実習③		トレンドメイク実習					
第14週	期末試験対策		期末試験のポイント・復習					
第15週	期末試験		期末試験実施(実技・筆記)					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 日本メイクアップ技術検定3級取得を卒業要件とする (1)授業内で小テストを行う (2)課題・レポート提出をする (4)期末試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率80%に満たないものには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		70	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎		○		10	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点～70点
授業態度			○				10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福本 真弓			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukumoto/			

科目名	ヘアアレンジ基礎		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ウィッグ使用の実技中心となる。 ヘアアレンジの技術の他に、道具の扱い方を習得する。またTPOに合わせた身だしなみを整えるためのヘアセットができるようになる							
授業の一般目標	就職活動～卒業後の現場でのセルフヘアセット技術の習得。 イベントや実技試験で必要となるアレンジ技術の習得を目指す。 モデルやウィッグにオリジナルのヘアアレンジができる							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	VICオリジナル教材							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	ヘアアレンジに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中でヘアアレンジについて主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点	1セルフ及びウィッグで夜会巻きができる 2 編み込みを取り入れたオリジナルのヘアアレンジができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	基礎知識		道具類の配布 道具類の種類と使用法・頭部の名称・黒ゴムの前準備					
第2回	身だしなみの為のアップスタイル		自分で出来るアップスタイル					
第3回	身だしなみの為のアップスタイル		自分で出来るアップスタイル・夜会巻					
第4回	基礎技術 (基礎1)		基礎技術を修得する					
第5回	基礎技術 (基礎2)		ブラッシング・ピンニング・ホットカーラの巻き方 毛髪調整(スタイリング剤の使い方)					
第6回	基礎技術 (基礎3)		各種タボの作り方・根止め(土台)の作り方 ゴムの結び方・逆毛(バックコーミング)の技法					
第7回	基礎技術 (基礎4 一束)		一束にまとめる(・すぎ毛あり・すぎ毛なし等)					
第8回	基礎技術 (基礎5 サイド)		サイドのまとめ方(・ひねり上げ・ねじり上げ等					
第9回	基礎技術 (基礎5 フロント)		フロントのまとめ方(・ボンパドル・各パート分け等)			第1回～第9回までのチェックテスト実施		
第10回	編み込み 基礎技術 根元からしっかり編む基本法		基本の毛束の持ち方と指使いを修得 ・表編み・裏編み・ロープ編み・フィッシュボーン ・四つ編み					
第11回	編み込み 基礎技術 基本技法で編み込む		各セクションより髪をすくい取り編み込んでいく 片側表三つ編み込み・両側表編み込み					
第12回	編み込み 基礎技術 基本技法で編み込む		各セクションより髪をすくい取り編み込んでいく 片側裏三つ編み込み・両側裏編み込み					
第13回	アップスタイルの作製		編み込みのアップスタイルの作製					
第14回	期末試験対策		期末試験対策					
第15回	期末テスト		実技テスト・筆記テスト					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 日本メイクアップ技術検定3級取得を卒業要件とする (1)授業内で小テストを行う (2)作品・課題・レポート提出をする (3)期末試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率80%に満たないものには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○			◎		60	秀(S):100点～90点
小テスト					◎		10	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			評価なし	良(B):79点～70点
授業態度			◎	◎	◎		20	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	着付け		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	着付を通して、和の心に親しみ、‘正しい姿勢とご挨拶’ ‘美しい所作を生む和服の着こなし’ ‘たおやかな立ち居振る舞いと心得’ 大人の女性として恥ずかしくない礼儀や作法を身に付ける。又 着物の取り扱いについても学ぶ							
授業の一般目標	日本伝統衣装とふれあい、正しい姿勢や所作、着物の取り扱いを学びながら、着付け技術の基本ができるようになる							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	着付けに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で着付けについて主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点	モデルに振袖を着付けることができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1週	浴衣の着付 着物のたたみ方		・肌着、裾除けの着付 ・浴衣の着付・帯結び（蝶々結び） ・着物のたたみ方					
第2週	小紋着付		・補整の仕方 ・長襦袢の着付 ・小紋の着付 ・長襦袢と着物のたたみ方					
第3週	留袖着付		・留袖技術の習得、基礎					
第4週	留袖着付 二重太鼓		・留袖技術の習得、基礎 ・二重太鼓					
第5週	振袖着付		・振袖技術の習得、基礎					
第6週	振袖着付 変わり結び（かがやき）		・振袖技術の習得、基礎 ・変わり結び（かがやき）					
第7週	振袖着付 変わり結び（かがやき）		・振袖技術の習得、基礎 ・変わり結び（かがやき）					
第8週	振袖着付 変わり結び（かがやき）		・振袖技術の習得、基礎 ・変わり結び（かがやき）					
第9週	振り袖着付（ふくら雀）		・振袖技術の習得、基礎 ・変わり結び（ふくら雀）					
第10週	振り袖着付（ふくら雀）		・振袖着付 ・変わり結び（ふくら雀）					
第11週	振り袖着付（ふくら雀）		・振袖着付 ・変わり結び（ふくら雀）					
第12週	振り袖着付（ふくら雀）実技試験練習		・振袖着付 ・変わり結び（ふくら雀）					
第13週	振り袖着付（ふくら雀）実技試験練習		・振袖着付 ・変わり結び（ふくら雀）					
第14週	着付試験		・振袖着付 ・変わり結び（ふくら雀）					
第15週	袴着付		・女袴着付					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		◎	◎		◎		60	秀(S):100点～90点
小テスト							評価なし	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点～70点
授業態度	◎	◎	○	◎			10	可(D): 69点～60点
発表・作品			◎	◎	◎		30	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	エステ基礎		単位数	3	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	授業は実技を中心とする。 上達度を確認するために、適宜チェックテストを行い、テクニックを確実なものとするようにする。							
授業の一般目標	人体の構造及び機能で学んだ知識を活かし、施術をし、モデルのボディバランスの変化を知ることによって施術する喜びを感じる。 人に触れる施術を行うことで、接客する上での心遣い、気配り、相手を思いやる気持ちを育む。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	学び理解したことを説明する事ができる							
☐ 思考・判断の観点	学び理解したことについて自分の意見を伝える事ができる							
☐ 関心・意欲の観点	解剖生理学、マッサージに関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で解剖生理学について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1週	導入 肌に触れるという事		準備・時間厳守・身だしなみを整えることを学ぶ ホットタオルの作り方・ワゴンセット・ベッドセット ・ターバンの巻き方・タオルセットの方法を学ぶ					
第2週	オイル塗布、軽擦を学ぶ		オイル塗布・軽擦 (圧を抜く・密着する・姿勢に気をつける)					
第3週	ヒップアップの手法、指圧を学ぶ		パイプレーション・プレシオン (指圧)					
第4週	足裏のマッサージを学ぶ 強擦法 切打法を学ぶ		かかとの強擦・足の裏の切打・足の裏の圧迫					
第5週	足裏のマッサージを学ぶ 足裏の血行促進方法を学ぶ		足の裏8の字・足の裏のプレシオン・足の裏の指圧					
第6週	ふくらはぎのマッサージを学ぶ タッピング法を習得する		腓腹筋のマッサージ ①腓腹筋のマッサージ ②タッピング					
第7週	ふくらはぎのマッサージを学ぶ 足首ストレッチ法を習得する		内分泌のツボ・足首のストレッチ・足のストレッチ					
第8週	マッサージ後の効果検証		オイル塗布から足のストレッチまで通し (左右の脚で実践) 疑問点・苦手部分を確認する					
第9週	脱毛学 水溶性WAXによる脱毛処理を学ぶ		毛の構造、ヘアサイクルを理解する 水溶性WAXの使用方、注意点を学ぶ					
第10週	セルライトにアプローチする マッサージを学ぶ ペトリサージュを習得する		ペトリサージュ (体の移動・密着を習得する)					
第11週	ふくらはぎの血行を促進する マッサージを学ぶ 1 切打法を習得する		切打 (体の動き・手の動きを習得する)					
第12週	ふくらはぎの血行を促進する マッサージを学ぶ 2 拍打法を習得する		拍打 (手の動きを習得する)					
第13週	マッサージ後の沈静方法を学ぶ 擦り上げを習得する		擦り上げ (手の動き・手の圧・密着を習得する)					
第14週	フットマッサージ全工程 復習 1		下肢背面 通し確認 (左右の脚で実施) 疑問点・苦手部分の克服 下肢背面 通し計測 ペアで確認しあいアドバイスをして手技を習得する					
第15週	フットマッサージ全工程 復習 2		期末テスト詳細連絡 下肢背面 通し計測					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B): 79点～70点
授業態度			○				10	可(D): 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	荒木 真衣			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/araki/			

科目名	ビジネスと仕事の実践		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必須		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	授業は座学・発表を中心とする。 社会人基礎力・セルフマネジメント力の向上を図るとともに、経営、マネジメントの視点を持つことで即戦力となる人材を目指す							
授業の一般目標	社会人としての基礎知識を学ぶとともに、セルフマネジメント力の向上を図る。経営、マネジメントの視点を持つことで社会人になる自覚を持つとともにビジネス感覚を養う							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	YIC京都オリジナル教材							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	ビジネスに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中でビジネスについて主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点	個人サロンを創造し、プロモーションができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	オリエンテーション	授業について・働く意義・仕事と職業の違いについて						
第2回	お金と仕事①	給与の役割・福利厚生とは						
第3回	お金と仕事②	税金・社会保険について基礎知識			小テスト			
第4回	社会人としての常識とマナー	社会人1年目までに備えるべき常識とマナー						
第5回	電話対応	電話を受ける・電話をかける						
第6回	クレーム対応基礎知識	クレーム対応について			小テスト			
第7回	ストレスについて	ストレスとストレスコーピング						
第8回	アンガーマネージメント	『怒り』の感情と上手に付き合う・アサーションスキル						
第9回	プレゼンテーションとは	プレゼンテーション基礎・説得力のある伝え方						
第10回	経営とは	ビジネス・経営について・PDCAサイクル						
第11回	マーケティング	マーケティングの基本的な考え方						
第12回	サロン起業1	繁盛店（個人サロン）を考えてみよう・事業計画書						
第13回	サロン起業2	繁盛店（個人サロン）を考えてみよう・DM作成						
第14回	プレゼンテーション実践	個人サロンをプレゼンテーション						
第15回	期末試験	期末試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点以上、出席率80%以上 (1)期末試験を実施する (2)課題・レポートを作成し提出する (3)授業内で小テストを行う (4)授業内で発表を行う 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率が80%以下のものには単位を与えない								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○	◎				60	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				10	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート							5	良(B):79点～70点
授業態度							10	可(D):69点～60点
発表・作品					◎		15	不可(E):59点以下
演習								
出席			○				欠格条件	
担当教員	福本 真弓			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukumoto/			

科目名	サービス接遇		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)			美容業界で働くにあたり必要な心構えと接客力を身につける、サービス接遇を通し、理解を深める。					
授業の一般目標			サービス接遇3級取得。 社会人基礎力の向上を目指し、就職活動や業界で働くための基本的なマナーを身に付ける					
受講条件			出席率80%以上が前提となる。					
事前学習について (テキスト・参考書等)			サービス接遇検定3級公式テキスト・サービス接遇検定3級実問題集					
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点			1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる					
□ 思考・判断の観点			授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる					
□ 関心・意欲の観点			接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる					
□ 態度の観点			日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる					
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	オリエンテーション		授業の進め方の説明と検定要項の確認					
第2回	実務技能		問題処理、環境整備、金品管理について理解できる					
第3回	専門知識		サービスの意義、機能、種類を理解する 商業用語、経済用語が理解できる					
第4回	一般知識		社会常識、時事問題が理解できる					
第5回	対人技能		一般的な人間関係や対人心理、マナーが理解できる					
第6回	対人技能		接遇用語を理解し基本的な話し方ができる 提示説明の仕方が理解できる					
第7回	サービススタッフの資質		必要とされる要件、従業員要件を備えており判断、表現ができる					
第8回	実務技能		問題処理、環境整備、金品管理について理解できる			二級対策スタート		
第9回	専門知識		サービスの意義、機能、種類を理解する 商業用語、経済用語が理解できる					
第10回	一般知識		社会常識、時事問題が理解できる					
第11回	対人技能		一般的な人間関係や対人心理、マナーを理解し表現、実行することができる					
第12回	対人技能		接遇用語を理解し基本的な話し方ができる 提示説明の仕方が理解できる					
第13回	サービススタッフの資質		必要とされる要件、従業員要件を備えており判断、表現ができる					
第14回	実務技能		問題処理、環境整備、金品管理について理解できる					
第15回	期末試験の実施		期末試験の実施					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 サービス接遇検定3級を卒業要件とする (1)授業内で適宜小テストを行う (2)課題提出をする (3)期末試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率80%に満たないものには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	◎	◎				10	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート	○	○	○				10	良(B):79点～70点
授業態度				○		○	10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	メイクアップⅠ		単位数	4	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	座学・実技中心の授業(講師デモンストレーション・学生実習) メイクアップの基礎知識・ベーシック～応用技術・アイテムの知識・人間性・マナー・感性を土台に、能力の向上を目指す。JMA検定を学びながら、基本に忠実な本物の技術、顧客や社会のために誠実な思いを持って提供し喜びをもたらす職業としてメイクアップに携わることの尊さや誇り、美しさを志向します。							
授業の一般目標	(1)日本メイクアップ技術検定2級取得。 (2)モデルの顔分析をし、基本のバランスにフルメイクができるようになる (3)メイクアイテムを正しく理解し、用途に応じで使い分けができる							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	日本メイクアップ技術検定試験3級・2級公式テキスト・VICオリジナル教材							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	メイクに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中でメイクについて主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点	1. モデルの骨格に合わせた基本バランスにフルメイクができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容		備考		
第1回～ 第4回	オリエンテーション・復習・手技確認			授業に関するルール・JMA検定について 知識復習・手技確認				
第5回～ 第8回	顔分析・ベースメイク			顔分析・ベースメイク理論・実技				
第9回～ 第12回	スキんケア概論 ポイントメイク①			スキんケア概論・アイブロー基礎				
第13回～ 第16回	メイクアップ基礎理論 ポイントメイク②			アイブロー応用 アイメイク基礎				
第17回～ 第20回	ベースメイク理論 ポイントメイク③			アイブロー・アイメイク応用、アイラインマスカラ基礎				
第21回～ 第24回	ポイントメイク理論 ポイントメイク応用			目元応用 リップ チーク応用				
第25回～ 第28回	修正メイクアップ・2級通し			2級通しタイム計測・苦手箇所練習				
第29回～ 第32回	知識検定模擬テスト・2級通し			2級通しタイム計測・苦手箇所練習		小テスト		
第33回～ 第36回	日本メイクアップ知識検定・2級通し			ベーシック試験・2級通し				
第37回～ 第40回	検定模擬試験			JMA 2級の検定諸注意・実技模擬試験		小テスト		
第41回～ 第44回	JMA 2級検定試験			JMA 2級検定試験				
第45回～ 第48回	イメージメイク理論			コラージュ作成・イメージメイク4パターン				
第49回～ 第52回	イメージメイク 顔分析			顔分析・イメージメイク応用				
第53回～第56回	期末試験対策			実技・筆記模擬試験				
第57回～ 第60回	期末試験			実技・筆記試験				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 (1)期末試験を実施する (2)授業内で小テストを数回実施する (3)授業内で課題を提出する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率が80%に満たないものには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		70	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎		◎		20	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点～70点
授業態度			○	○			5	可(D): 69点～60点
発表・作品					○		5	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福本 真弓			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukumoto/			

科目名	メイクアップⅡ		単位数	4	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	座学、講師デモンストレーション、相モデルを取り入れた実習を中心とする。技術力・接客力・知識力を高め、メイクアップの修整、イメージ応用まで習得する。お客様にわかりやすく伝える表現力やアドバイスを習得する							
授業の一般目標	日本メイクアップ技術検定1級取得。 イメージメイクとカウンセリングトークを深く理解し、モデルの要望に合わせたメイクとアドバイスができるようになる。							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない。本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	日本メイクアップ技術検定試験1級公式テキスト							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	イメージメイク4パターンを説明する事ができる							
☐ 思考・判断の観点	学び理解したことについて自分の意見を論理的に伝える事ができる							
☐ 関心・意欲の観点	メイクに関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中でメイクについて主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点	1モデルの要望(イメージ)に合わせたフルメイクで30分で仕上げる事ができる 2カウンセリング、モデルに合ったメイクのアドバイスができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1週	オリエンテーション		1級検定内容について・カウンセリング法とアドバイス法				4月13日	
第2週	キュートメイク基礎		キュートメイク理論 カウンセリングメイク				4月20日	
第3週	キュートメイク応用		キュートメイクを利用した似合わせメイクとアドバイスメイク				4月27日	
第4週	エレガント基礎		エレガントメイク理論 カウンセリングメイク				5月11日	
第5週	エレガント応用		エレガントメイクを利用した似合わせメイクとアドバイスメイク				5月18日	
第6週	フレッシュ基礎		フレッシュメイク理論 カウンセリングメイク				5月25日	
第7週	フレッシュ応用		フレッシュメイクを利用した似合わせメイクとアドバイスメイク				6月1日	
第8週	クール基礎		クールメイク理論 カウンセリングメイク				6月8日	
第9週	クール応用		クールメイクを利用した似合わせメイクとアドバイスメイク				6月15日	
第10週	イメージメイク「キュート・エレガント」		相モデルで2パターンの似合わせメイクとアドバイスメイク				6月22日	
第11週	イメージメイク「フレッシュ・クール」		相モデルで2パターンの似合わせメイクとアドバイスメイク				7月6日	
第12週	イメージメイク2パターン		相モデルで2パターンの似合わせメイクとアドバイスメイク				7月13日	
第13週	エイジングメイク		エイジング世代に向けて修正メイク				7月20日	
第14週	JMA1級模擬試験		一級試験同様の流れ、タイム計測 審査を行う				7月27日	
第15週	期末試験		期末試験 実技テスト				9月7日	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 (1)期末試験を実施する (2)授業内で小テストを実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率が80%に満たないものには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○	◎		◎		60	秀(S):100点～90点
小テスト					◎		10	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート							10	良(B): 79点～70点
授業態度			○	○			20	可(D): 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	イメージメイク		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	実技中心の授業(講師のデモスト、学生が実技を行う) メイクカルテを活用し、理解力を深める 実技チェックテストを行い、テクニックの習得状況を確認し、実技を確実に習得する。							
授業の一般目標	メイク基礎で学んだ知識を活かし、技術を行う事でメイク表現の違いを知る。 メイクの楽しさを他者に伝えることのできるテクニック、表現方法を学ぶ。 様々なメイク表現を習得し、現場で活かせる技法を身に付ける。							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	MAKEUP SKILLS TEXTBOOK BASIC							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	学び理解したことを説明する事ができる							
☐ 思考・判断の観点	学び理解したことについて自分の意見を伝える事ができる							
☐ 関心・意欲の観点	メイクに関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中でメイクについて主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点	イメージに合わせてメイクができるようになる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備考			
第1週	メイクテクニック技術確認	フルメイク技術チェック・デモンストレーション						
第2週	基本テクニック (ベース)	ファンデーション・ブロンザーテクニック						
第3週	基本テクニック (アイブロウ)	基本テクニック・似合わせメイク						
第4週	基本テクニック (アイシャドウ)	マツト・パールのグラデーション						
第5週	ハロウィンメイク	赤×黒 紫×グレーのグラデーションテクニック						
第6週	基本テクニック (チーク・リップ)	基本テクニック キュート・エレガント・クール・ボーイッシュの説明						
第7週	イメージメイク実践 キュート	キュートメイクのテクニックを習得しモデルの骨格にあったキュートメイクができる						
第8週	イメージメイク実践 エレガント	エレガントメイクのテクニックを習得しモデルの骨格にあったエレガントメイクができる						
第9週	イメージメイク実践 ボーイッシュ	ボーイッシュメイクのテクニックを習得しモデルの骨格にあったボーイッシュメイクができる						
第10週	イメージメイク実践 クール	クールメイクのテクニックを習得しモデルの骨格にあったクールメイクができる						
第11週	実技試験実施	イメージメイクの実践(テスト)						
第12週	資生堂プロフェッショナル授業	スキんケアとイメージマトリクス別ファンデーション実習						
第13週	資生堂プロフェッショナル授業	ゴールデンバランスに基づくパーツメイク実習						
第14週	資生堂プロフェッショナル授業	エレガントメイク応用 跳ね上げライン・インカーブリップ						
第15週	資生堂プロフェッショナル授業	実在アーティストを参考にクリエイティブな濃いメイク						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 (1)期末試験を実施する (2)授業内で小テストを数回実施する (3)授業内で課題を提出する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率が80%に満たないもには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎		◎		30	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B): 79点～70点
授業態度			○				10	可(D): 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	イメージメイク応用		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	実技中心の授業(講師のデモスト、学生が実技を行う) メイクカルテを活用し、理解力を深める 実技チェックテストを行い、テクニックの習得状況を確認し、実技を確実に習得する。							
授業の一般目標	イメージメイクで学んだ知識を活かし、技術を行う事でメイク表現の違いを知る。 メイクの楽しさを他者に伝えることのできる応用テクニック、表現方法を学ぶ。 様々なメイク表現を習得し、現場で活かせる応用技法を身に付ける。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	学び理解したことを説明する事ができる							
☐ 思考・判断の観点	学び理解したことについて自分の意見を伝える事ができる							
☐ 関心・意欲の観点	メイクに関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中でメイクについて主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点	それぞれのイメージメイクを2パターン以上表現できる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容		備考			
第1週	メイクテクニック技術確認		フルメイク技術チェック・デモンストレーション					
第2週	応用テクニック (ベース)		ファンデーション・ブロンザーテクニック					
第3週	応用テクニック (アイブロウ)		基本テクニック・似合わせメイク					
第4週	応用テクニック (アイシャドウ)		マツト・パールのグラデーション					
第5週	ハロウィンメイク応用		傷メイク					
第6週	応用テクニック (チーク・リップ)		応用テクニック キュート・エレガント・クール・ボーイッシュの説明					
第7週	イメージメイク実践 キュート		キュートメイクの応用テクニックを習得しモデルの骨格にあったキュートメイクができる					
第8週	イメージメイク実践 エレガント		エレガントメイクの応用テクニックを習得しモデルの骨格にあったエレガントメイクができる					
第9週	イメージメイク実践 ボーイッシュ		ボーイッシュメイクの応用テクニックを習得しモデルの骨格にあったボーイッシュメイクができる					
第10週	イメージメイク実践 クール		クールメイクの応用テクニックを習得しモデルの骨格にあったボーイッシュ・クールメイクができる					
第11週	実技試験実施		イメージメイク応用の実践 (テスト)					
第12週	スキンケア理論 スキンケア～ベース (座学、実技)		スキンケアとイメージマトリクス別ファンデーション実習					
第13週	ゴールデンバランス		ゴールデンバランスに基づくパーツメイク実習					
第14週	フルメイク 応用		クールメイク応用 骨格的なマニッシュメイク					
第15週	フルメイク 応用		アーティスティックなクリエイティブなメイク					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 (1)期末試験を実施する (2)授業内で小テストを数回実施する (3)授業内で課題を提出する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率が80%に満たないものは単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎		◎		30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ブライダルメイク		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	即戦力として活用できるブライダルメイクヘアを学ぶ。							
授業の一般目標	ブライダルにおけるヘア・メイク・衣装などの知識や技術を習得する。 成人式・卒業式・結婚式に合わせたヘアメイクができる							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点		学んだ事を説明できる。2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる						
□ 思考・判断の観点		授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる						
□ 関心・意欲の観点		ブライダルヘアメイクに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる						
□ 態度の観点		日常生活の中でブライダルヘアメイクについて主体的に考えることができる						
□ 技能・表現の観点		衣装・場面に合わせてヘアアレンジができる						
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1週	トータル・ヘアメイク		技術チェック。相モデルで骨格やパーツなどの補正					
第2週	トータル・ヘアメイク		相モデル30分フルメイク カウンセリングとアップスタイル2パターン					
第3週	トータル・ヘアメイク		相モデル30分フルメイク 和装と洋装のメイクの違い					
第4週	トータル・ヘアメイク		相モデルで、前回とは違うベアーで、オーダー通りにヘアメイクを仕上げる					
第5週	トータル・ヘアメイク		相モデルで、前回とは違うベアーで和装のオーダー通りにヘアメイクを仕上げる アテンドの知識					
第6週	トータル・ヘアメイク		相モデルで、前回とは違うベアーで、洋装花嫁の特殊なオーダー通りにヘアメイクを仕上げる					
第7週	トータル・ヘアメイク		相モデルで、洋装→和装のヘアメイクのクイックチェンジを行う					
第8週	トータル・ヘアメイク		相モデルで、洋装→和装のヘアメイクのクイックチェンジを行う					
第9週	トータル・ヘアメイク		相モデルで、和装→洋装のヘアメイクのクイックチェンジを行う					
第10週	トータル・ヘアメイク		ヘアメイクアレンジ①					
第11週	トータル・ヘアメイク		ヘアメイクアレンジ①					
第12週	トータル・ヘアメイク		ヘアメイクアレンジ①					
第13週	トータル・ヘアメイク		相モデルの試験対策準備：衣装とヘアメイクデザインを考える					
第14週	トータル・ヘアメイク		作品制作					
第15週	トータル・ヘアメイク		期末試験・作品制作					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 (1)授業内で課題・作品の提出を行う (2)期末試験を実施する (3)作品の仕上がり、準備姿勢、出席点を換算して総合評価を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率が80%に満たないものには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		◎		◎	◎		60	S(4):90点以上
小テスト	○						10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2):70点以上
授業態度			◎	◎	◎		20	C(1):60点以上
発表・作品			○	○	○		10	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	撮影メイク		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	座学、講師デモンストレーション、相モデルを取り入れた、「聴く」「観る」「実際に行う」の3つのパターンで成り立つ知識とそれを使った技術を習得できるプログラムヘアメイク選手権にエントリーする作品作り行う							
授業の一般目標	顔分析を行い、学んだテクニックを活かしメイクができるようになる。 これまで学んできたメイクテクニックを活かし、クリエイティブな作品を創造する。 ラグゼビューティフオトコンテストに出場し入賞を目指す。							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	イメージメイクテキスト							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	学び理解したことを説明する事ができる							
☐ 思考・判断の観点	学び理解したことについて自分の意見を伝える事ができる							
☐ 関心・意欲の観点	メイクに関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中でメイクについて主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点	テーマに沿った作品を創造し、メイクで表現することができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1週	顔分析 メイク ①		横 内心 外心 を意識し顔分析を行い メイクが出来るようになる					
第2週	顔分析 メイク ②		縦 内心 外心 を意識し顔分析を行い メイクが出来るようになる					
第3週	顔分析 メイク ③		上方 下方 を意識し顔分析を行い メイクが出来るようになる					
第4週	顔分析 メイク まとめ		顔分析によるメイクの実践				実技テスト	
第5週	モードメイク アイカラー ①		アイカラーの中抜きテクニックを実践する事が出来るようになる					
第6週	モードメイク アイカラー ②		アイカラーの目頭抜きテクニックを実践する事が出来るようになる					
第7週	モードメイク アイカラー ③		アイカラーのシャープテクニックを実践する事が出来るようになる					
第8週	モードメイク アイカラー ④		アイカラーのラウンドテクニックを実践する事が出来るようになる					
第9週	モードメイク アイライン ①		アイラインのスリムラインとオープンアイのテクニックを実践することが出来るようになる					
第10週	モードメイク アイライン ②		アイラインのキャッツアイとアーモンドアイのテクニックを実践することが出来るようになる				実技テスト	
第11週	コンテスト応募用作品作り		イメージ収集、チェック、メイク実践					
第12週	コンテスト応募用作品作り		イメージ収集、チェック、メイク実践					
第13週	コンテスト応募用作品作り		イメージ収集、チェック、メイク実践					
第14週	コンテスト応募用作品作り		最終確認					
第15週	撮影(コンテスト応募用)		メイクアップアドバンステキストに基づいた実技 パーティ、トレンド、スチール、撮影用等様々なメイク				発表・作品	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 (1)授業内で実技テストを行う (2)授業内で作品を創造し、提出する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率が80%に満たないものには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎			◎		50	秀(S):100点～90点
小テスト							評価なし	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点～60点
発表・作品		◎		◎	◎		40	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	コスメティック販売実習		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	百貨店研修・メーカー研修での学習内容をいち早く習得し、即戦力となる人材育成、ビューティーのプロを目指します。							
授業の一般目標	店頭での電話対応マナー、カウンター業務・接客の習得する。 お客様の肌悩みに応じたアドバイスと商品の提案ができるようになる。							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	YIC京都オリジナル教材							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	学んだ事を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	学び理解したことについて自分の意見を論理的に伝える事ができる							
□ 関心・意欲の観点	メイクに関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で販売やメイクについて主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点	お客様の肌悩みに合わせた説明とアドバイスができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1週	オリエンテーション ビューティアドバイザーに求められる条件	自己紹介 授業内容確認 身だしなみ 就活の流れ						
第2週	アプローチ～接客までの流れ	購買心理/「褒める」/「ネガティブ」コミュニケーション /ハンドアウト 金銭授受/お見送り						
第3週	電話対応(かける・受ける) クレーム対応について	電話対応のマナー/クレームの種類と対応/レジ計算問題						
第4週	ニーズの把握(スキンケア) 表皮について(角質層～基底層)	ニーズの把握を知る 皮膚知識 トーク						
第5週	ニーズの把握(スキンケア) 表皮について(角質層～基底層)	提案の流れを知る 皮膚知識 トーク						
第6週	メイクカウンセリング	肌悩みをカウンセリングし、似合うベースメイクの提案 メイク実習あり						
第7週	紫外線について シミのメカニズム 各ブランドの美白ライン研究	紫外線知識・シミ 美白アイテムの研究						
第8週	小テスト	表皮・真皮の構造 紫外線・しみのメカニズム			小テスト			
第9週	季節と肌 お気に入りコスメプレゼン	四季による環境の変化と肌へのダメージが説明できる お気に入りのコスメをプレゼン						
第10週	乾燥について	乾燥の原因と対策を説明できるようになる						
第11週	アンチエイジングについて	アンチエイジングの原因と対策を説明できるようになる 各ブランドのアンチエイジングライン						
第12週	にきび・肌あれについて 販売計画	にきびの原因と対策を説明できるようになる 販売計画目標の作成						
第13週	ミネラルコスメを用いてのメイクアドバイス	ミネラルコスメを用いて、スキンケアカウンセリング～ タッチアップ～クロージングまで実施						
第14週	百貨店見学	百貨店見学 各メーカーでタッチアップを受けレポート作成						
第15週	期末試験対策	お客様の悩みに対応できる知識と接客技術を習得						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 (1)期末試験を実施する (2)授業内で小テスト・発表を実施する (3)授業内で課題を出題しレポートの提出をする 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率が80%に満たないものには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		50	秀(S)：100点～90点
小テスト	◎	○	◎				20	優(A)：89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B)：79点～70点
授業態度			○				10	可(D)：69点～60点
発表・作品					◎		10	不可(E)：59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員			実務経験紹介					

科目名	メイクセラピーⅠ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	座学、実技の授業 テキストの他、学習プリントで検定試験の出題ポイントを習得する メイクセラピーの知識と技術を習得する							
授業の一般目標	メイクセラピー3級合格 メイクによる心理的効果を学び、メイクがQOLの向上に役立つことを理解する メイクテクニックを習得し、オーダーに伴った印象にセルフメイク(印象管理)が出来るようになる。							
受講条件	出席80％以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	メイクセラピー検定3級対策テキスト							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	メイクセラピーに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中でメイクセラピーについて主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容		備 考			
第1回	メイクセラピーとは		オリエンテーション メイクセラピーの目的・役割を理解する					
第2回	顔と心と化粧の関係		気分・感情・思い込みについて理解する					
第3回	カウンセリング概論		カウンセリングの意義や基本テクニックについて					
第4回	メイクアップ概論①		メイクセラピーのメイクアップにおける3大要素		小テスト			
第5回	メイクアップ概論②・スキンケア概論		色彩・コスメティックの質感・肌タイプについて					
第6回	癒し系メイク		癒し系の印象にセルフメイクをする					
第7回	キャリア系メイク		就職活動の身だしなみについて・キャリア系の印象にセルフメイクをする					
第8回	3級対策		3級対策授業					
第9回	小テスト・3級復習		小テスト・3級復習プリント		小テスト			
第10回	メイクセラピー3級試験		メイクセラピー3級試験実施					
第11回	カウンセリング実習		傾聴スキル・オーダーカウンセリング					
第12回	印象分析		色味・形による印象分析					
第13回	半顔メイク・メインカウンセリング		オーダーカウンセリングに伴った印象に半顔メイク（相モデル）・メインカウンセリング					
第14回	半顔セルフメイク・フォローカウンセリング		オーダーに伴った印象にセルフメイク・フォローカウンセリング					
第15回	期末試験		筆記試験（60分）					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80％以上 ※メイクセラピー検定3級取得を卒業要件とする 成績点70％、提出物&授業態度点20％、出席点10％を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B): 79点～70点
授業態度			○				10	可(D): 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福本 真弓			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukumoto/			

科目名	メイクセラピーⅡ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	座学・グループワークを取り入れた授業 化粧品療法の領域における援助法の一つとして、心理的な援助活動に必要な「心理学」「コミュニケーション」メイクアップに必要な「メイク理論」「色彩学」を学びメイクセラピーの概念を総合的に習得する 適宜視覚教材を利用							
授業の一般目標	メイクセラピー検定2級取得 メイクセラピーにおける心理学・メイク理論を習得し説明ができる 心理カウンセリングの手法を身に付け、傾聴しながら半顔にメイクが出来る。							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	メイクセラピー検定2級・1級対策テキスト							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	メイクセラピーに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中でメイクセラピーについて主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点	傾聴をしながらオーダーに伴った印象にメイクで表現ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容		備 考			
第1回	オリエンテーション		メイクセラピー検定について メイクセラピーとは					
第2回	メイクセラピーの心理学①		精神分析と無意識・論理療法					
第3回	メイクセラピーの心理学②		交流分析・防衛機制					
第4回	化粧品心理学①		化粧の歴史・役割					
第5回	化粧品心理学②		印象管理・承認欲求					
第6回	カウンセリング概論		カウンセリング・傾聴スキル					
第7回	印象分析・メイクアップに必要な3要素		パーツバランス・色彩・コスメティックの質感					
第8回	2級筆記対策		事例に学ぶ・論述問題対策		小テスト			
第9回	2級筆記対策		練習問題・出題傾向と注意点					
第10回	メイクセラピー検定2級試験		メイクセラピー検定2級筆記試験					
第11回	メイクセラピー検定2級実技試験		メイクセラピー検定2級実技試験					
第12回	1級概要説明・筆記対策		メイクセラピー検定1級概要説明					
第13回	1級試験出題例		オーダーに伴ったメイクアップ					
第14回	期末試験対策		1～13回までの復習					
第15回	期末試験(筆記)		期末試験					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 (1)期末試験を実施する (2)授業内で小テストを実施する (3)授業内で課題を提出する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率が80%に満たないもには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		70	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		○			○		10	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			5	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福本 真弓			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukumoto/			

科目名	メイクセラピーⅢ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	実習を中心とした授業 メイクセラピーテキストの他、サブテキストを参考に実技演習をしながら理解を深める。 検定試験の出題ポイントの習得の他、授業の振り返りも丁寧にを行い自分で考えて伝える力も育てる。 適宜視覚教材を使い、接客時に必要な信頼関係の築き方の実例を学ぶ。							
授業の一般目標	(1)メイクセラピー検定2級取得。クライアントとどのようにしたら信頼関係を構築できるのか、心理学を応用したカウンセリング技術を習得。 (2)傾聴をしながら、クライアントのオーダーに伴った印象にメイクアップができるようになる (3)授業で学んだ対人認知・印象管理などの技術を自分自身の就職活動・社会人生活にも活かせるように身につける。							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	メイクセラピー検定2級・1級テキスト・YIC京都オリジナル教材							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	メイクセラピーに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中でメイクセラピーについて主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点	会話(傾聴中心)をしながらオーダーに伴った印象に半顔メイクができる。							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	メイクセラピーの心理学		来談者中心療法・行動療法的アプローチ					
第2回	化粧心理学		化粧の効用・評価と心理					
第3回	カウンセリング概論		積極的傾聴・共感的理解・受容的態度					
第4回	印象分析・ポイントメイク		ポイントメイク実習					
第5回	遠心メイク・求心メイク		印象チェンジメイク					
第6回	2級対策メイク実習		知的でしっかりした仕事ができる印象					
第7回	2級対策メイク実習		上品で優しく女性らしい印象					
第8回	2級対策メイク実習		明るく元気で健康的な印象					
第9回	2級対策メイク実習		3パターンのオーダーから苦手なオーダーの練習					
第10回	模擬試験		オーダーに伴った印象に半顔メイク			小テスト		
第11回	メイクセラピー検定2級実技試験		メイクセラピー検定2級実技試験					
第12回	1級概要説明・実技対策		1級の概要説明・ベースメイク～半顔メイク					
第13回	傾聴トレーニング		オーダーに伴った印象にメイク・傾聴トレーニング					
第14回	期末試験対策		苦手なオーダーの練習					
第15回	期末試験		実技試験					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 (1)期末試験を実施する (2)授業内で小テストを実施する (3)授業内で課題を提出する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率が80%に満たないもには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		70	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート							10	良(B):79点～70点
授業態度			○				5	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福本 真弓			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukumoto/			

科目名	ネイル I (2級・アート)		単位数	4	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ネイル検定2級(ネイルケア・カラー・チップラップ・検定アート) アクリルベーシック(アクリル概論・スカルプ・チップオーバーレイ) ジェルベーシック1(ジェル概論・プレパレーション・フローター・オフ・ジェルアート基礎) ネイルアートベーシック(フラットアート・エンボスアート・3Dアート)							
授業の一般目標	JNECネイリスト技能検定試験2級取得 JNECネイリスト技能検定試験1級受験準備 JNAジェルネイル技能検定試験初級取得							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	JNAテクニカルシステム ベーシック ジェル							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	ネイルアートに関する関心を広げることができる。							
☐ 態度の観点	自ら積極的にネイルアートに関し提案することができる							
☐ 技能・表現の観点	検定アート・ベーシックなネイルアートができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1週	検定対策		ケア・検定カラー・チップラップ					
第2週	アート		フラットアート					
第3週	検定対策		ケア・検定カラー・チップラップ					
第4週	検定対策		ケア・検定カラー・チップラップ					
第5週	検定対策		2級解説・手順説明・検定アート					
第6週	アート		フラットアート					
第7週	検定対策		2級後半練習					
第8週	アート		フラットアート					
第9週	検定対策		2級検定試験模擬					
第10週	アート		エンボスアート					
第11週	検定対策		2級検定対策					
第12週	検定対策		2級検定対策					
第13週	アート		3Dアート					
第14週	アート		ミックスメディアアート					
第15週	検定対策		1級対策					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点50点 小テスト模擬テスト課題40点、検定合否10点 ネイル検定2級取得を卒業要件とする								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B): 79点～70点
授業態度			○				10	可(D): 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ネイルⅡ（アクリル基礎）		単位数	4	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	検定2級（ネイルケア・カラー・チップラップ・検定アート） アクリルベーシック（アクリル概論・スカルプ・チップオーバーレイ・3Dアート） ジェルベーシック1（ジェル概論・プレパレーション・フローター・オフ・ジェルアート基礎）							
授業の一般目標	JNECネイリスト技能検定試験2級取得 JNECネイリスト技能検定試験1級受験準備 JNAジェルネイル技能検定試験初級取得							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について （テキスト・参考書等）								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	アクリルに関する関心を広げることができる。							
□ 態度の観点	自ら積極的にアクリルについて予習復習をすることができる							
□ 技能・表現の観点	スカルプ・チップオーバーレイ・3Dアートができる							
授業計画（全体）								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画（授業単位）								
回	主 題		授 業 内 容		備 考			
第1週	アクリルベーシック		アクリル概論・ミクスチャートレーニング					
第2週	アクリルベーシック		ハンド製作・フォーム					
第3週	アクリルベーシック		アプリケーション・ピンチ					
第4週	アクリルベーシック		アプリケーション・ファイル					
第5週	アクリルベーシック		フィリング					
第6週	アクリルベーシック		スカルプハンド練習					
第7週	アクリルベーシック		スカルプ相モデル					
第8週	アクリルベーシック		スカルプ相モデル					
第9週	アクリルベーシック		チップオーバーレイ					
第10週	検定対策		1級対策					
第11週	検定対策		1級対策					
第12週	検定対策		2級検定対策					
第13週	検定対策 1級		1級検定対策					
第14週	検定対策 1級		1級検定対策					
第15週	検定対策 1級		1級検定対策					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点50点 小テスト模擬テスト課題40点、検定合格10点 ネイル検定2級取得を卒業要件とする								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		50	秀（S）：100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優（A）：89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良（B）：79点～70点
授業態度			○				10	可（D）：69点～60点
発表・作品							評価なし	不可（E）：59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ネイルⅢ		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	検定2級（ネイルケア・カラー・チップラップ・検定アート） アクリルベースック（アクリル概論・スカルプ・チップオーバーレイ・3Dアート） ジェルベースック1（ジェル概論・プレパレーション・フローター・オフ・ジェルアート基礎）							
授業の一般目標	JNECネイリスト技能検定試験2級取得 JNECネイリスト技能検定試験1級受験準備 JNAジェルネイル技能検定試験初級取得							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	ジェルアートに関する関心を広げることができる。							
☐ 態度の観点	自ら積極的にジェルアートについて予習復習をすることができる							
☐ 技能・表現の観点	基本的なプレパレーション・フローター・オフ・ジェルアートができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1週	ジェルベースック		後期教材配布・商品説明・ジェル概論					
第2週	ジェルベースック		プレパレーション・ジェルフローター・オフ					
第3週	ジェルベースック		フローターオフ					
第4週	ジェルベースック		ジェルアート					
第5週	ジェルベースック		フローター					
第6週	ジェルベースック		ジェルアート					
第7週	ジェル検定対策		ジェル検定初級概要・手順					
第8週	ジェル検定対策		初級検定対策					
第9週	ジェル検定対策		初級検定対策					
第10週	ジェル検定対策		ジェルアート					
第11週	ジェル検定対策		初級検定対策					
第12週	検定対策		初級検定対策					
第13週	ジェル検定対策		初級検定対策					
第14週	ジェル検定対策		初級検定対策					
第15週	まとめ		初級検定対策					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点50点 小テスト模擬テスト課題40点、検定合格10点 ネイル検定2級取得を卒業要件とする								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B): 79点～70点
授業態度			○				10	可(D): 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ネイルⅣ		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	検定2級（ネイルケア・カラー・チップラップ・検定アート） アクリルベーシック（アクリル概論・スカルプ・チップオーバーレイ・3Dアート） ジェルベーシック1（ジェル概論・プレパレーション・フローター・オフ・ジェルアート基礎）							
授業の一般目標	JNECネイリスト技能検定試験2級取得 JNECネイリスト技能検定試験1級受験準備 JNAジェルネイル技能検定試験初級取得							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	ジェルアートに関する関心を広げることができる。							
☐ 態度の観点	自ら積極的にジェルアートについて予習復習をすることができる							
☐ 技能・表現の観点	スカルプ・チップオーバーレイ・3Dアートができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1週	復習	ネイルケア復習						
第2週	復習	ネイルケア復習						
第3週	復習	ネイルケア復習						
第4週	復習	チップラップ復習						
第5週	復習	チップラップ復習						
第6週	復習	チップラップ復習						
第7週	復習	検定アート						
第8週	復習	検定アート						
第9週	復習	アクリル復習						
第10週	復習	アクリル復習						
第11週	復習	アクリル復習						
第12週	復習	アクリル復習						
第13週	復習	アクリル復習						
第14週	復習	アクリル復習						
第15週	復習	アクリル復習						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点50点 小テスト模擬テスト課題40点、検定合否10点 ネイル検定2級取得を卒業要件とする								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点～70点
授業態度			○				10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ネイルⅤ		単位数	4	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ネイル総合(アクリル・ジェルネイル・ケアカラー・ネイルアート・フットケア) ネイル資格・試験の対策							
授業の一般目標	サロンワークに通ずるネイル知識の習得 サロンワークに通ずるネイル技術の習得 就職活動に活かせるネイル知識の取得							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	ジェルアートに関する関心を広げることができる。							
☐ 態度の観点	自ら積極的にジェルアートについて予習復習をすることができる							
☐ 技能・表現の観点	課題に沿ったジェルアートができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容		備考			
第1週	検定対策		アクリル基礎①実践					
第2週	アクリルアドバンス		アクリル基礎②実践					
第3週	アクリルアドバンス		アクリル基礎③実践					
第4週	アクリルアドバンス		アクリル基礎④実践					
第5週	アクリルアドバンス		アクリル基礎⑤実践					
第6週	アクリルアドバンス		アクリル基礎⑥実践					
第7週	アクリルアドバンス		アクリル基礎⑦実践					
第8週	アクリルアドバンス		コンテスト対策					
第9週	アクリルアドバンス		コンテスト対策					
第10週	アクリルアドバンス		コンテスト対策					
第11週	アクリルアドバンス		コンテスト対策					
第12週	アクリルアドバンス		コンテスト対策					
第13週	検定対策		1級対策					
第14週	検定対策		1級対策					
第15週	検定対策		各受験級の苦手克服					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点50点 小テスト模擬テスト課題40点、検定合格10点 ネイル検定2級取得を卒業要件とする								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎		◎		30	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点～70点
授業態度			○				10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ネイルⅥ		単位数	4	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ネイル総合(アクリル・ジェルネイル・ケアカラー・ネイルアート・フットケア) ネイル資格・試験の対策							
授業の一般目標	サロンワークに通ずるネイル知識の習得 サロンワークに通ずるネイル技術の習得 就職活動に活かせるネイル知識の取得							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	スイートサンシャイン ベーシックテキスト アドバンステキスト							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	ジェルアートに関する関心を広げることができる。							
☐ 態度の観点	自ら積極的にジェルアートについて予習復習をすることができる							
☐ 技能・表現の観点	サロンワークに通ずるネイル技術ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1週	コンテスト対策		アクリル コンテストスタイル					
アクリル コンテストスタイル								
アクリル コンテストスタイル								
アクリル コンテストスタイル								
アクリル コンテストスタイル								
アクリル コンテストスタイル								
第7週	フット		フット座学					
第8週	フット		フット検定 自校開催予定					
第9週	検定		各受験級の苦手克服					
第10週	ジェル		ジェル検定中級・スカルプ					
ジェル検定中級・グラデーション								
ジェル検定中級・フレンチ								
ジェル検定中級・後半実技								
ジェル検定中級・後半実技								
ジェル検定中級・後半実技								
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点50点 小テスト模擬テスト課題40点、検定合格10点 ネイル検定2級取得を卒業要件とする								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○				◎		30	秀(S):100点～90点
小テスト	◎		○		○		20	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート			○				10	良(B): 79点～70点
授業態度				◎			30	可(D): 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ネイルⅦ		単位数	4	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ネイル総合(アクリル・ジェルネイル・ケアカラー・ネイルアート・フットケア) ネイル資格・試験の対策							
授業の一般目標	サロンワークに通ずるネイル知識の習得 サロンワークに通ずるネイル技術の習得 就職活動に活かせるネイル知識の取得							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	スイートサンシャイン ベーシックテキスト アドバンステキスト							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	ジェルアートに関する関心を広げることができる。							
☐ 態度の観点	自ら積極的にジェルアートについて予習復習をすることができる							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容		備考			
第1週	コンテスト対策		カラーラウンド					
第2週	コンテスト対策		カラーラウンド					
第3週	コンテスト対策		カラーラウンド					
第4週	入客チェック		ハンドトリートメント					
第5週			ハンドトリートメント					
第6週			プレパレーション					
第7週			グラデーション①					
第8週			グラデーション②					
第9週			フレンチ					
第10週			フレンチ					
第11週			オフ					
第12週			共通デザイン					
第13週			共通デザイン					
第14週	アート		ジェルアート・サロンアート					
第15週	アート		ジェルアート・サロンアート					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点50点 小テスト模擬テスト課題40点、検定合格10点 ネイル検定2級取得を卒業要件とする								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○				◎		30	秀 (S):100点～90点
小テスト	◎		○		○		20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート			○				10	良 (B):79点～70点
授業態度				◎			30	可 (D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				失格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	解剖生理学 I		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	座学・グループワーク・発表形式を取り入れた授業 チェックテストを実施し、学習した知識・技術の習得状況を自己管理する 学習の仕方を学び活用する 適宜視覚教材を利用							
授業の一般目標	・ 解剖生理学の応用を学び習得する ・ 学んだ知識を基に、お客様が納得する説明ができる ・ INFA国際ライセンス国内卒業筆記試験合格							
受講条件	出席率80％以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	学び理解したことを説明する事ができる							
☐ 思考・判断の観点	学び理解したことについて自分の意見を伝える事ができる							
☐ 関心・意欲の観点	解剖生理学に関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で解剖生理学について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備考		
第1週	導入 解剖生理学復習	前期に学んだ解剖生理学の復習テスト INFA筆記試験を合格するための学習のポイント、学習の進め方の確認						
第2週	細胞 1	細胞の構造について学ぶ(各名称を覚える・細胞の役割・分裂について学ぶ)						
第3週	骨格系統 1	骨の働きを理解する 骨の名称を覚える 骨を形状別に区別する						
第4週	骨格系統 2	骨と関節の構造と役割について学ぶ						
第5週	筋肉 1	筋肉の働きを理解する 筋肉の名称を覚える 筋肉の種類を理解する						
第6週	筋肉 2	筋の収縮と疲労について学ぶ 運動と栄養と筋肉の関係について学ぶ						
第7週	皮膚 1	皮膚の役目を理解する 表皮、真皮、について学ぶ						
第8週	皮膚 2	皮下組織について学ぶ 皮膚の付属器について学ぶ(汗腺・皮脂腺・毛・爪)						
第9週	皮膚 3	様々な皮膚トラブルについて学ぶ アトピー性皮膚炎、アレルギー、紫外線により肌への影響、にきびの発生の仕方						
第10週	消化器 1	消化器の構造を学ぶ 概論、口腔と付属器官、咽頭と食道						
第11週	消化器 2	消化器官について学ぶ(胃・小腸・大腸) 胃潰瘍、便秘について						
第12週	消化器 3	消化器官について学ぶ(肝臓・すい臓)						
第13週	栄養学	主要栄養素を学ぶ 三大栄養素、ミネラル、ビタミンの働きと欠乏症状 栄養素の吸収を学ぶ						
第14週	呼吸器	呼吸器系について学ぶ 気道、肺、横隔膜、胸式呼吸と腹式呼吸 喫煙のデメリットについて						
第15週	循環器 1	循環器について学ぶ(血液の循環経路・心臓の働き) 心臓疾患について						
第16週	循環器 2	血液成分とその役割 ・各血管の特徴						
第17週	循環器 3	リンパについて学ぶ(リンパとは何か・リンパの循環経路)						
第18週	排泄器	排泄器について学ぶ(腎臓の働き) 腎臓疾患について						
第19週	神経系 1	神経系を学ぶ(概論・神経系の分類)						
第20週	神経系 2	大脳皮質と脳幹・脊髄とその機能・神経の伝導路(うつ病、パーキンソン病の発症の仕組み)						
第21週	神経系 3	自律神経 交感神経、副交感神経の働き(自律神経失調症発症の原因)						
第22週	内分泌 1	ホルモンについて学ぶ(ホルモンの作用・ホルモン分泌をコントロールしているもの)						
第23週	内分泌 2	主な内分泌腺とホルモンの働き(刺激ホルモン、甲状腺ホルモン、上皮小体ホルモン、副腎ホルモン)						
第24週	内分泌 3	性腺と性ホルモン(更年期障害について その対処法)						
第25週	総合確認テスト	各章の確認テスト実施						
第26週	総合確認テスト 振り返り	総合テストの振り返り学習 各章の復習						
第27週	口頭試問対策	お客様の悩みを解消するアドバイスを考える (お客様が納得して実施しようと思えるアドバイスを考える)						
第28週	口頭試問対策	お客様へのアドバイス発表 みんなの前で発表をし納得して理解できるかを確認する						
第29週	口頭試問対策	アドバイス発表で得た改善点を活用しアドバイスの改善をする						
第30週	口頭試問対策	期末試験実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80％以上 成績点70％、提出物&授業態度点20％、出席点10％を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S)：100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A)：89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B)：79点～70点
授業態度			○				10	可(D)：69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E)：59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	荒木 真衣			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/araki/			

科目名	解剖生理学Ⅱ		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	座学・グループワーク・発表形式を取り入れた授業 チェックテストを実施し、学習した知識・技術の習得状況を自己管理する 学習の仕方を学び活用する 適宜視覚教材を利用							
授業の一般目標	・ 解剖生理学の応用を学び習得する ・ 学んだ知識を基に、お客様が納得する説明ができる ・ INFA国際ライセンス国内卒業筆記試験合格							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	INFAセオリー							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	学び理解したことを説明する事ができる							
☐ 思考・判断の観点	学び理解したことについて自分の意見を伝える事ができる							
☐ 関心・意欲の観点	解剖生理学に関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で解剖生理学について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1週	カルテ指導	カルテ指導 口頭試問対策						
第2週	口頭試問対策	過去の口頭試問問題の解説 骨、筋肉、皮膚 過去の口頭試問問題の解説 消化器、栄養学、呼吸器、排泄器						
第3週	INFA国際ライセンス受験	INFA国際ライセンス受験						
第4週	INFA国際ライセンス 受験後の振り返り	受験後の振り返り、ディスカッション フェイシャル・メイク試験への取り組み方の決定			感想文作成			
	皮膚学 復習	皮膚学復習テスト			小テスト			
第5週	皮膚学 応用	表皮の構造を深く理解する ターンオーバー、保湿度因子、バリア機能 真皮の構造を深く理解する 基底膜、各細胞と線維の働き						
第6週	皮膚生理学 皮膚の生理機能とは 美しい素肌とは	皮膚の生理機能 生理機能7つを理解する 美しい素肌の条件 美しい素肌の条件6つを理解する						
第7週	皮膚生理学 皮膚の生理機能とは	皮膚の生理機能 生理機能7つを理解する						
	皮膚生理学 美しい素肌とは	美しい素肌の条件 美しい素肌の条件6つを理解する						
第8週	皮膚生理学 様々な状態での皮膚の変化	皮膚の汚れの種類 季節別による皮膚 気温と皮膚						
	皮膚生理学 皮膚の内面美容 概論	皮膚と自律神経、ホルモン、大脳・小脳の関係						
第9週	皮膚生理学 皮膚と内臓	皮膚と内臓の関係を理解する 内臓疾患が肌に与える影響						
	美しい肌になるための食生活について	肌が美しくなる栄養素を理解する ビタミンの働き ミネラルの働き カルシウムの働き 脂肪酸の働き			小テスト			
第10週	皮膚と紫外線	皮膚と紫外線の関係を理解する 紫外線の分類と皮膚への作用 紫外線防御とSPF メラニンの生成過程と美白剤を理解する メラニン合成経路、適応する美白剤						
第11週	皮膚と色素異常 皮膚と湿疹	皮膚と色素異常について理解する 肝斑、そばかす等 皮膚と湿疹について理解する 湿疹の分類方法と発症過程						
第12週	アレルギーについて アトピー性皮膚炎について	アレルギーについて理解する 一次刺激性とアレルギー性皮膚炎の違い アレルギーを起こす原因物質 アトピー性皮膚炎について理解する 定義と症状、かゆみの発症過程と治療法、 スキンケアのポイント						
第13週	にきびについて ①	にきびについて理解する にきびの症状と発症メカニズム 皮脂過剰原因、毛穴閉塞原因、炎症原因 にきびのスキンケアのポイントを理解する			小テスト			
第14週	ブラックヘッドについて	ブラックヘッドについて理解する						
	エステティック機器学について ①	エステティック機器学について理解する 機器の使用法、原理、仕組み						
	エステティック機器学について ②	電気的2重層について理解する						
第15週	皮膚とストレスの関係	皮膚とストレスの関係を理解する ストレスとホメオスタシス ランゲルハンス細胞、NK細胞、副腎皮質ホルモン、自律神経			小テスト			
第16週	皮膚と女性ホルモンの関係	皮膚と女性ホルモンの関係を理解する 月経周期による肌の変化 更年期と肌の関係						
	皮膚と睡眠の関係	皮膚と睡眠の関係を理解する 成長ホルモン、レム睡眠、ノンレム睡眠 睡眠とホルモンの関係を理解する			小テスト			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点～70点
授業態度			○				10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	荒木 真衣		実務経験紹介		https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/araki/			

科目名	エステ(ボディ)		単位数	8	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	実技中心の授業。 学習プリントで技術の習得状況、未習得状況を自己管理する。 適宜チェックテストを実施し、テクニックを確実にする							
授業の一般目標	・マッサージの効果・テクニックを習得する ・社会に出て「サロンで働く」上で、必要なルール・マナー・守秘義務・清掃を習得する ・社会に出て「サロンで働く」上で必要な時間管理能力を身につける ・INFA国際ライセンス ボディパスポート国内卒業試験合格							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	学び理解したことを説明する事ができる							
☐ 思考・判断の観点	学び理解したことについて自分の意見を伝える事ができる							
☐ 関心・意欲の観点	解剖生理学に関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で解剖生理学について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容		備考			
第1週	導入 確認テスト		実習室使用方法、清掃方法の確認。 コース内のルールを決定。 下肢背面確認テストの実施。					
第2週	ヒップマッサージの習得 ヒップアップの手技を習得 立体的なヒップメイキングの手技を習得		ヒップ軽擦、ヒップバイブレーション 3点ブッシュ、ヒップタッピング、切打、拍打					
第3週	背中のマッサージの習得 背中の痛みを和らげる手技 背中の血行促進の手技		背中軽擦、8点ブッシュ、のこぎり、6点圧					
第4週	背面のマッサージのクオリティを上げる①(下肢背面、ヒップ、背中)		下肢背面、ヒップ、背中のマッサージの復習 連続性、リズム、効果を意識しマッサージを行う					
第5週	背面のマッサージのクオリティを上げる②(下肢背面、ヒップ、背中)		苦手箇所、修正箇所の確認。 背面マッサージを完璧に施術できるようになる					
第6週	美脚マッサージを習得する むくみの解消 立体的なふくらはぎをつくる セルライトを解消する		下肢前面軽擦、足の指先マッサージ ペトリサージュ、切打、拍打 さすりあげ、9点ブッシュ					
第7週	理想的なウェスト作りの手技を習得 細いウェストを作る 便秘解消マッサージ		腹部軽擦、ふなこぎ、ペトリサージュ 三角形のマッサージ、大腸マッサージ					
第8週	前面のマッサージのクオリティを上げる①(下肢前面、腹部)		下肢前面、腹部のマッサージの復習 連続性、リズム、効果を意識しマッサージを行う					
第9週	前面のマッサージのクオリティを上げる②(下肢前面、腹部)		苦手箇所、修正箇所の確認。 前面マッサージを完璧に施術できるようになる					
第10週	・気になる二の腕を細くするマッサージの習得 細い指先をつくる 細い二の腕をつくる ・フットケア、 ・w a x		上腕の軽擦、8点ブッシュ、手のひら、ストレッチ、 脇のリンパを流す フットケア、ネイルケア、 水溶性w a x					
第11週	肩から首のマッサージを習得する 肩こりの解消 顔のむくみの解消 ・ベディキュア		頸部マッサージ ベディキュア					
第12週	理想的なバスト形成のマッサージを習得する バストアップ、胸の谷間の皺とりの手技 バストボリュームアップ、形状記憶の手技		バスト軽擦、3点のつぼ、リサージュ、エフルラージュ エバンタージュ、輪上軽擦、バイブレーション					
第13週	美しいバストをメイキングする		バストマッサージの復習 バストバック、O D T					
第14週	I N F A試験項目の復習 ①		カウンセリング、カルテ作成を行い、お客様に的確なアドバイスをした上で、施術時間を管理し、効果、目的を意識しながら試験項目の施術ができるようになる					
第15週	I N F A試験項目の復習 ②		カウンセリング、カルテ作成を行い、お客様に的確なアドバイスをした上で、施術時間を管理し、効果、目的を意識しながら試験項目の施術ができるようになる					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点～70点
授業態度			○				10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	荒木 真衣		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/araki/				

科目名	エステ(フェイシャル)		単位数	8	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	実技中心の授業。 学習プリントで技術の習得状況、未習得状況を自己管理する。 適宜チェックテストを実施し、テクニックを確実にする							
授業の一般目標	・マッサージの効果・テクニックを習得する ・社会に出て「サロンで働く」上で、必要なルール・マナー・守秘義務・清掃を習得する ・社会に出て「サロンで働く」上で必要な時間管理能力を身につける ・INFA国際ライセンス フェイシャルパスポート国内卒業試験合格							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	INFAテクニック							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	学び理解したことを説明する事ができる							
☐ 思考・判断の観点	学び理解したことについて自分の意見を伝える事ができる							
☐ 関心・意欲の観点	解剖生理学に関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で解剖生理学について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備考			
第1週	INFA国際ライセンス(ボディ) フルボディチェック	試験項目フルチェック						
第2週	INFA国際ライセンス(ボディ) フルボディチェック	試験項目フルチェック						
第3週	INFA国際ライセンス(ボディ) フルボディチェック	試験項目フルチェック						
第4週	INFA国際ライセンス(ボディ) フルボディチェック	模擬試験実施 修正点、改善点の理解						
第5週	INFA国際ライセンスボディ試験	INFA国際ライセンスボディ試験 実施						
第6週	フェイシャルケアの流れを理解する	フェイシャルケアの流れ、目的、肌状態のチェック フェイシャルケアの事前準備を理解する						
第7週	クレンジング ポイントクレンジング ネイルケア・カラー	デコルテマッサージの手順を理解する						
第8週	クレンジング ベースクレンジング ネイルケア・カラー	デコルテマッサージの手順を理解する フェイシャルマッサージの手順を理解する						
第9週	デコルテマッサージ イメージメイク	フェイシャルマッサージの手順を理解する						
第10週	デコルテマッサージ イメージメイク	ベースクレンジング、ポイントクレンジング ふき取り デコルテマッサージ、フェイシャルマッサージ確認チェック						
第11週	フェイシャルマッサージ イメージメイク ヘアアレンジ	クレンジング、デコルテ、フェイシャルマッサージ 苦手克服						
第12週	エステティック機器 イメージメイク ヘアアレンジ	ベースクレンジング、ポイントクレンジング ふき取り デコルテマッサージ、フェイシャルマッサージ確認チェック						
第13週	エステティック機器 イメージメイク ヘアアレンジ	エステティック機器について理解する スチーマーの使用方法、イオン導入、ブラシクレンジング パック						
第14週	試験項目 実技チェック ①	エステティック機器について理解する スチーマーの使用方法、イオン導入、ブラシクレンジング パック						
第15週	試験項目 実技チェック ②	試験項目の一連の流れを理解する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点～70点
授業態度			○				10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	荒木 真衣			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/araki/			

科目名	アロマテラピーⅠ		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	授業は座学を中心とする。 理解を確認するために、適宜チェックテストを行い、知識を確実なものとするようにする。 また、理解しやすいよう、適宜視覚教材を利用する。							
授業の一般目標	身体への生理作用を理解し、実践に役立つ知識を習得する。身体への生理作用を理解し、実践に役立つ知識を習得する アロマテラピー検定1級取得を目指す。							
受講条件	出席80％以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行わない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	アロマテラピー検定公式テキスト2級1級							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	精油に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で精油の役割、効果効能について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容		備考			
第1週	香りに親しむ		導入・イメージング					
第2週	アロマテラピーのある暮らし		安全の為の注意 芳香浴法・沐浴法・吸入法					
第3週	精油のプロフィール 精油の基礎知識		精油とは・芳香物質 ジュンパーベリー・ティートリー・オレンジスイート					
第4週	精油のプロフィール 精油の基礎知識		イランイラン・パチュリ・ペチパー メリッサ・レモングラス 精油製造法					
第5週	精油のプロフィール 精油の基礎知識		ローズアブソリュート・ローズオットー 心身に作用する経路・精油の作用 ジャスミン・ベンゾイン・グレープフルーツ					
第6週	精油のプロフィール アロマテラピーの歴史		ゼラニウム・ユーカリ・ペパーミント・クラリセージ 先史時代～古代					
第7週	精油のプロフィール アロマテラピーの歴史		サンダルウッド・ミルラ・ベンゾイン フランキンセンス・サイプレス 中世～近代					
第8週	精油のプロフィール アロマテラピーの歴史		ローズマリー・ベルガモット・スイートマージョラム ネロリ・ブラックペッパー 現代					
第9週	精油のプロフィール		ラベンダー・レモン					
第10週	アロマテラピーと環境		植物とともに生きてきた私たちの歴史 いま、地球が抱える難題 一人ひとりができることから ハーブについて					
第11週	アロマテラピーの楽しみ方		アロマテラピーの基材					
第12週	アロマテラピーに関係する法律		アロマテラピーの法律問題					
第13週	アロマテラピーのメカニズムと健康学		脳のしくみと働き 嗅覚の生理メカニズム・大脳辺縁系とアロマテラピー					
第14週	アロマテラピーのメカニズムと健康学		精油成分の薬理作用 ホームケアの活用例 アロマテラピーの健康学					
第15週	検定対策		模擬テスト					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80％以上 アロマテラピー検定2級を卒業要件とする (1)授業内で小テストを行う (2)課題・レポート提出をする (3)期末試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率80％に満たないものには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B): 79点～70点
授業態度			○				10	可(D): 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	実務経験紹介							

科目名	パーソナルカラー		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	授業は座学を中心とする。 理解を確認するために、適宜チェックテストを行い、知識を確実なものとするようにする。 また、理解しやすいよう、適宜視覚教材を利用する。							
授業の一般目標	パーソナルカラリスト検定2級合格							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	パーソナルカラリスト検定2級公式テキスト							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	色彩と文化 染料・染色と顔料	天然染料・日本の染料、顔料、合成染料						
第2回	ヨーロッパの色の歴史	古代ギリシャ、ローマ、中世、ルネッサンス、19世紀、20世紀						
第3回	色彩理論 混色	減法混色、加法混色、中間混色、生活の中の混色						
第4回	照明と色	光源の種類と用途、光色と演色性						
第5回	色の知覚効果	光、面積、対比による色の見え方						
第6回	基本的な配色テクニック	色相、色調配色 配色の構成						
第7回	CUS表色系における配色調和とアンダートーン	色調の変化とアンダートーン						
第8回	ファッション概論	トータルコーディネーションの必要性						
第9回	ファッションとイメージワード	ファッションとイメージワード						
第10回	ディスプレイと色彩	ディスプレイの基準						
第11回	インテリアと色彩	インテリアと色彩						
第12回	パーソナルカラーとスタイリング	パステルサマー、ブリリアントウインター、ブライツスプリング、ディープオータムのスタイリング						
第13回	ブライダルと色彩	パステルサマー、ブリリアントウインター、ブライツスプリング、ディープオータムのスタイリング						
第14回	パーソナルシーズンカラー120	人の特徴によるアンダートーン パーソナルカラー						
第15回	検定対策	パーソナルカラー2級検定試験対策						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ヘアアレンジⅠ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	座学、講師デモンストレーション、相モデルを取り入れた、「聴く」「観る」「実際に行う」の3つのパターンで成り立つ知識とそれを使った技術を習得できるプログラム フォトコンテストにエントリーする作品作り行う							
授業の一般目標	ビューティスペシャリストとしての美容の知識、テクニックを実践しながら創造力と感性を高め、クリエイティブな作品を作る。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点	テーマに基づいたヘアアレンジができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備考		
第1回	ヘアアレンジ技術確認	オリエンテーション・復習				4月15日		
第2回	ヘアアレンジ①	編み込み				4月22日		
第3回	ヘアアレンジ②	ピン留め・ハーフアップスタイル				5月6日		
第4回	ヘアアレンジ③	編み込み・まとめ髪				5月13日		
第5回	ヘアアレンジ④	コテ巻き・巻き下ろし・ピンワーク				5月20日		
第6回	年代別ヘアアレンジ	80年代ディスコ風ヘアメイク				5月27日		
第7回	トレンドヘア①	トレンドヘアメイク				6月3日		
第8回	トレンドヘア②	外国人風 巻き髪				6月10日		
第9回	ヘアアレンジテスト	ヘアアレンジテスト				6月17日		
第10回	コンテスト応募用作品作り	テーマ・コンセプト決め				6月24日		
第11回	コンテスト応募用作品作り	イメージ収集、チェック、ヘアアレンジ実践				7月1日		
第12回	コンテスト応募用作品作り	イメージ収集、チェック、ヘアアレンジ実践				7月8日		
第13回	コンテスト応募用作品作り	イメージ収集、チェック、ヘアアレンジ実践				7月15日		
第14回	撮影最終チェック	撮影最終チェック				9月2日		
第15回	撮影（コンテスト応募用）	テーマに基づいたヘアアレンジ実習				9月9日		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品					◎		10	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	メイクアップ応用			単位数	2	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	選択必須			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	・実技中心の授業 必要に応じて講義形式を取り入れる ・必要に応じて視覚教材を使用							
授業の一般目標	メイクで学んだ知識・技術を活かし、様々なメイクアップ技術でメイクの表現方法を知る							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	YICオリジナル教材							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点	30分でモデルにエレガントメイクを施すことができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1週	メイクアップ理論		INFAメイク、エレガントメイクについて理解する 外国人と日本人の骨格の違いを学ぶ					
第2週	メイクアップ理論		印象分析 光と影を学ぶ					
第3週	フルメイク		フルメイク実践					
第4週	ベースメイク		ベースメイク基礎チェック					
第5週	ベースメイク		アイメイク基礎チェック					
第6週	ベースメイク		ベースメイク基礎チェック					
第7週	アイブロウ		アイブロウ基礎チェック					
第8週	アイブロウ		アイブロウ基礎チェック					
第9週	アイメイク		アイメイク基礎チェック					
第10週	アイメイク		アイメイク基礎チェック					
第11週	リップ		リップメイク基礎チェック					
第12週	フルメイク		エレガントメイク					
第13週	フルメイク		エレガントメイク					
第14週	フルメイク		エレガントメイク					
第15週	総まとめ		期末試験の実施					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		70	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				10	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			評価なし	良(B):79点～70点
授業態度			○				20	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	荒木 真衣			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/araki/			

科目名	トータルコーディネート		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ファッション、モードの移り変わりとともに、身体装飾の重要な部分として確立されたヘアスタイルとメイクアップについてメディアやアートを通して繰り返し参照され、再構築されていくそのスタイルの歴史や意味について考える。 また、欧米と日本の化粧文化を比較しながら、ファッションとしての現代人の身体モードについて探る。							
授業の一般目標	ビューティスペシャリストとしての美容の知識、テクニックを実践しながら理解する。創造力と感性を高め、クリエイティブな作品を作る。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点	テーマに合わせてアート作品を作成することができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	デッサンの描き方		メイク道具を使ってデッサンを行う					
第2回	ファッションの歴史（1900年～20年代）		社会背景、ファッション、ヘアメイクを理解する					
第3回	ファッションの歴史（1930～1940年代）		社会背景、ファッション、ヘアメイクを理解する					
第4回	ファッションの歴史（1950年～1970年代）		社会背景、ファッション、ヘアメイクを理解する					
第5回	年代別メイク①		年代別メイクデモンストレーション					
第6回	年代別メイク②		年代別メイク実習					
第7回	ファッションの歴史（1980年～現代）		社会背景、ファッション、ヘアメイクを理解する					
第8回	デザインメイク		メイク模写					
第9回	撮影に向けて基礎能力アップ		ポイントメイク（アイブロウ・アイライン）強化					
第10回	イメージメイク応用		クール・マニッシュメイク					
第11回	イメージ作り		撮影に向けてイメージ作成					
第12回	撮影対策①		撮影対策 ファッション					
第13回	撮影対策②		撮影対策 小物作り					
第14回	撮影最終チェック		トータルコーディネート練習					
第15回	フォトコンテスト撮影		撮影・フォトコンテスト作品選び					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品					◎		10	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	メイクアップ特論Ⅰ			単位数	4	科目コード		
授業形態	講義実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	選択科目			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	メイクセラピー検定1級対策授業 傾聴スキルを習得しクライアントのなりたいたい印象を引き出しオーダーに伴ったメイクができるようになる 今まで学んだ知識・技術を用いてメイクレッスンができるようになる。							
授業の一般目標	メイクセラピー検定1級取得。傾聴スキルを用いて会話をしながらメイクができるようになる。 今まで学んだ知識・技術を人に教えることができる							
受講条件	出席80％以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	メイクセラピー検定1級対策テキスト							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	メイクセラピーに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中でメイクアップについて主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点	カウンセリングでなりたいたい印象を引き出し、オーダーに伴ったメイクができるようになる。複数人に対してメイクを教えることができる。							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1週	オリエンテーション			授業について・検定について・カウンセリングについて 感情についてDVD視聴				
第2週	対話分析・メイク実習			対話分析・オーダーに伴ったメイク実習				
第3週	カウンセリング実習・メイク実習			共感・承認・要約 オーダーに伴ったメイク実習				
第4週	カウンセリング実習・メイク実習			オーダーカウンセリング実習・メイク実習				
第5週	カウンセリング実習・メイク実習			メインカウンセリング・フォローカウンセリング				
第6週	メイクセラピー実習①			オーダーカウンセリング～フォローカウンセリング				
第7週	メイクセラピー実習②			オーダーカウンセリング～フォローカウンセリング				
第8週	検定対策			筆記・実技対策				
第9週	検定対策			模擬試験 メイクセラピー検定1級通し				
第10週	サロン運営の概要決定			サロン運営をする上でのタイムスケジュールの決定 準備物の確認 役割分担 の決定 メニューの決定 企画書の作成				
第11週	接客応対について考える			サロンの一連の流れを考え、決定する 接客応対のシュミレーションを実施				
第12週	接客練習			サロンメニューのシュミレーション・実技練習を行う				
第13週	サロン運営			サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる				
第14週	サロン運営			サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる				
第15週	サロン運営振り返り・テスト・レポート			サロン運営振り返り・テスト・レポート				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80％以上 成績点70％、提出物＆授業態度点20％、出席点10％を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○	○		◎		50	秀(S)：100点～90点
小テスト	◎	○	◎		◎		30	優(A)：89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B)：79点～70点
授業態度			○				10	可(D)：69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E)：59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	メイクアップ特論Ⅱ		単位数	4	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択科目		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	今まで学んだメイクアップの知識・技術をアウトレットし、メイクの理論・知識を深めお客様に伝える(教える)力を身に付ける。メイクレッスンの講義・レッスン動画の作成をし発信力を身に付ける							
授業の一般目標	日本メイクアップ知識検定アドバンス取得 お客様に対してメイクレッスン開講のための導入・展開・まとめを意識した講座の組み立てをしメイクレッスンをすることができる。							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	日本メイクアップ知識検定アドバイステキスト・問題集							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	メイクセラピーに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中でメイクアップについて主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点	複数人に対してメイクを教えることができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1週	オリエンテーション・検定対策		授業の目標・検定について・骨格、筋肉・皮膚について 講座を行う上での留意点					
第2週	検定対策・講座の組み立て		化粧品学・顔のバランスと印象 導入・展開・まとめについて					
第3週	検定対策・レッスン動画作成計画		メイクアップ理論 レッスン動画作成計画					
第4週	検定対策・レッスン動画作成		メイクアップのイメージ理論・レッスン動画作成					
第5週	日本メイクアップ知識検定アドバンス模擬試験 メイクレッスン動画作成		日本メイクアップ知識検定アドバンス復習・メイクレッスン動画作成					
第6週	日本メイクアップ知識検定アドバンス 試験 メイクレッスン動画作成		日本メイクアップ知識検定アドバンス試験・メイクレッスン動画作成					
第7週	メイクレッスン動画作成		メイクレッスン動画作成					
第8週	メイクレッスン動画作成		メイクレッスン動画作成					
第9週	百貨店見学・コスメプレゼンテーション		百貨店見学・コスメ研究・プレゼンテーション実施				テスト	
第10週	期末テスト実施		期末試験実施				テスト	
第11週	サロン運営		スチューデントサロンを行う目的を理解し、他の授業との関連性を理解する サロンを運営する上での準備項目を共有認識する					
第12週	サロン運営		準備物の作成を行う DMの作成を行う サロンの一連の流れを考え、決定する					
第13週	サロン運営		・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる					
第14週	サロン運営		・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる					
第15週	サロン運営・振り返り		サロン運営についての振り返り実施、改善点を話し合う				レポート提出	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点・出席率80%以上 成績点70%・提出物&授業態度点20%・出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○		◎		50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎				◎		20	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点～70点
授業態度				○			10	可(D): 69点～60点
発表・作品	◎		○		◎		20	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ネイル特論Ⅰ		単位数	4	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択科目		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ネイル総合(アクリル・ジェルネイル・ネイルアート)ネイル資格・試験の対策 サロンワークに通ずるネイルの知識の習得 就職活動に活かせるネイル資格の取得							
授業の一般目標	JNAジェル検定上級検定取得 JNECネイリスト技能試験1・2級取得 就職に活用できる、知識・資格の勉強を通じ、職業意識を高める							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	JNAテクニカルシステム(ベーシック)(ジェルネイル) スウィートサンシャイン ベーシックテキスト・アドバンステキスト							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	ネイルに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中でネイルについて主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点	サロンワークに通ずるネイル技術ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1週	検定対策		各受験級の苦手克服					
第2週	検定対策		各受験級の苦手克服					
第3週	ジェルネイル		ジェルスカルプ					
第4週	ジェルネイル		ジェルスカルプ					
第5週	ジェルネイル		ジェルチップオーバーレイ					
第6週	ジェルネイル		ジェルデザインオーバーレイ					
第7週	ジェルネイル		ジェルフレンチオーバーレイ					
第8週	ジェルネイル		ジェル検定上級対策					
第9週	ジェルネイル		ジェル検定上級対策					
第10週	ジェルネイル		ジェル検定上級対策					
第11週	サロン運営		スチューデントサロンを行う目的を理解し、他の授業との関連性を理解する サロンを運営する上での準備項目を共有認識する					
第12週	サロン運営		準備物の作成を行う DMの作成を行う サロンの一連の流れを考え、決定する					
第13週	サロン運営		サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる					
第14週	サロン運営		サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる					
第15週	サロン運営・振り返り		サロン運営についての振り返り実施、改善点を話し合う					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				20	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B):79点～70点
授業態度							評価なし	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習					◎		30	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ネイル特論Ⅱ		単位数	4	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択科目		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ネイル総合(アクリル・ジェルネイル・ネイルアート) JNAジェル検定上級検定取得 NECネイリスト技能試験1・2級取得							
授業の一般目標	サロンワークに通ずるネイルの知識の習得 就職に活用できる、知識・資格の勉強を通じ、職業意識を高める							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	JNAテクニカルシステム(ベーシック)(ジェルネイル) スウィートサンシャイン ベーシックテキスト・アドバンステキスト							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	ネイルに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中でネイルについて主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点	サロンワークに通ずるネイル技術ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1週	検定対策	各受験級の苦手克服対策						
第2週	検定対策	各受験級の苦手克服対策						
第3週	検定対策	各受験級の苦手克服対策						
第4週	アクリル	デザインスカルプ						
第5週	アクリル	フレンチスカルプ						
第6週	アート	ネイルアート						
第7週	アクリル	ドリルワーク						
第8週	アクリル	フェイルイン						
第9週	アート	ネイルアートアート						
第10週	試験	ネイル試験						
第11週	サロン運営	スチューデントサロンを行う目的を理解し、他の授業との関連性を理解する サロンを運営する上での準備項目を共有認識する						
第12週	サロン運営	準備物の作成を行う DMの作成を行う サロンの一連の流れを考え、決定する						
第13週	サロン運営	サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる						
第14週	サロン運営	サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる						
第15週	サロン運営・振り返り	サロン運営についての振り返り実施、改善点を話し合う						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				20	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B):79点～70点
授業態度							評価なし	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習					◎		30	
出席			○				欠格条件	
担当教員			実務経験紹介					

科目名	エステ特論Ⅰ		単位数	4	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択科目		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	・ 実技中心の授業、必要に応じて講義形式を取り入れる ・ 必要に応じて視聴覚教材使用 ・ 適宜チェックテストを実施							
授業の一般目標	・INFA国際ライセンス取得(フェイシャル)レベルの技術を身につけ、常に同じレベルの施術を提供する術を身に付ける ・取り組みの中で忍耐力・思いやりの心・丁寧な立ち居振る舞いを身に付け社会生活で活用できる							
受講条件	出席率80％以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	INFA							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容		備 考			
第1回 ①・②	INFA国際試験対策-1		オールの通し 1 (計測・口頭試問あり) ※良かった部分と改善部分を交流し合う					
第2回 ①・②	INFA国際試験対策-2		オールの通し 2 (計測・口頭試問あり) ※良かった部分と改善部分を交流し合う					
第3回 ①・②	INFA国際試験対策-3		オールの通し 3 (計測・口頭試問あり) ※良かった部分と改善部分を交流し合う					
第4回 ①・②	INFA国際試験対策-4		オールの通し 4 (計測・口頭試問あり) ※良かった部分と改善部分を交流し合う					
第5回 ①・②	INFA国際試験対策-5		オールの通し 5 (計測・口頭試問あり) ※良かった部分と改善部分を交流し合う					
第6回 ①・②	INFA国際試験対策-6		オールの通し 6 (計測・口頭試問あり) ※良かった部分と改善部分を交流し合う					
第7回 ①・②	INFA国際試験対策-7		オールの通し 7 (計測・口頭試問あり) ※良かった部分と改善部分を交流し合う					
第8回 ①・②	INFA国際試験対策-8		オールの通し 8 (計測・口頭試問あり) ※良かった部分と改善部分を交流し合う					
第9回 ①・②	INFA国際ライセンス受験		INFA国際ライセンスフェイシャル受験					
第10回 ①・②								
第11回 ①・②	スチューデントサロン プランニング ①	スチューデントサロンのトリートメントメニューを計画する ボランティア現場研修のメニューを計画する						
第12回 ①・②	スチューデントサロン プランニング ②	スチューデントサロントリートメントメニューを正しく時間内で施術できるようになる ボランティア現場研修のメニューを正しく時間内で施術できるようになる						
第13回 ①・②	スチューデントサロン プランニング ③	スチューデントサロントリートメントメニューを正しく時間内で施術できるようになる ボランティア現場研修のメニューを正しく時間内で施術できるようになる						
第14回 ①・②	期末テスト内容確認-1		期末テスト課題を正しく時間内に施術できるようになる					
第15回 ①・②	期末テスト内容確認-2		期末テスト課題を正しく時間内に施術できるようになる					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80％以上 成績点70％、提出物&授業態度点20％、出席点10％を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B): 79点～70点
授業態度			○				10	可(D): 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	実務経験紹介							

科目名	エステ特論Ⅱ		単位数	4	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択科目		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	・ 実技中心の授業、必要に応じて講義形式を取り入れる ・ 必要に応じて視聴覚教材使用 ・ 適宜チェックテストを実施							
授業の一般目標	・INFA国際ライセンス取得(フェイシャル)レベルの技術を身につけ、常に同じレベルの施術を提供する術を身に付ける ・取り組みの中で忍耐力・思いやりの心・丁寧な立ち居振る舞いを身に付け社会生活で活用できる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	INFA							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容		備考			
第1週	INFA国際試験対策-1		オールの通し 1 (計測・口頭試問あり) ※良かった部分と改善部分を交流し合う					
第2週	INFA国際試験対策-2		オールの通し 2 (計測・口頭試問あり) ※良かった部分と改善部分を交流し合う					
第3週	INFA国際試験対策-3		オールの通し 3 (計測・口頭試問あり) ※良かった部分と改善部分を交流し合う					
第4週	INFA国際試験対策-4		オールの通し 4 (計測・口頭試問あり) ※良かった部分と改善部分を交流し合う					
第5週	INFA国際試験対策-5		オールの通し 5 (計測・口頭試問あり) ※良かった部分と改善部分を交流し合う					
第6週	INFA国際試験対策-6		オールの通し 6 (計測・口頭試問あり) ※良かった部分と改善部分を交流し合う					
第7週	INFA国際試験対策-7		オールの通し 7 (計測・口頭試問あり) ※良かった部分と改善部分を交流し合う					
第8週	INFA国際試験対策-8		オールの通し 8 計測・口頭試問あり) ※良かった部分と改善部分を交流し合う					
第9週	INFA国際ライセンス受験		INFA国際ライセンスフェイシャル受験					
第10週								
第11週	スチューデントサロン プランニング ①	スチューデントサロンのトリートメントメニューを計画する ボランティア現場研修のメニューを計画する						
第12週	スチューデントサロン プランニング ②	スチューデントサロントリートメントメニューを正しく時間内で施術できるようになる ボランティア現場研修のメニューを正しく時間内で施術できるようになる						
第13週	スチューデントサロン プランニング ③	スチューデントサロントリートメントメニューを正しく時間内で施術できるようになる ボランティア現場研修のメニューを正しく時間内で施術できるようになる						
第14週	期末テスト内容確認-1		期末テスト課題を正しく時間内に施術できるようになる					
第15週	期末テスト内容確認-2		期末テスト課題を正しく時間内に施術できるようになる					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点～70点
授業態度			○				10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	パーツケア実習Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	・実技中心の授業 必要に応じて講義形式を取り入れる ・必要に応じて視覚教材を使用							
授業の一般目標	・WAX脱毛、ネイルケア ネイルカラーリング メイク等 パーツ部分を美しくするための技術を身につける							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	パーツケアに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	WAX、ペディキュア	毛の構造を理解し、正しく安全にWAX脱毛を行う事ができる キューティクルライン、サイド、エッジを意識し、ムラ無くネイルカラーをできるようにする(相モデルにて)			仕上がりチェック			
第2回	バストバック ペディキュア	乳腺解剖学やODT、バック剤の成分を理解し、正しくバストケアを行う事が出来る キューティクルライン、サイド、エッジを意識し、ムラ無くネイルカラーをできるようにする(相モデルにて)			仕上がりチェック			
第3回	INFA国際試験 会場設営	INFA国際試験の会場設営や備品の説明を受験者に説明する						
第4回	INFA国際試験の振り返り	INFA国際試験(ボディ)の受験を通して気付いた事、成長した点、今後の目標をディスカッションする			感想文提出			
第5回	ネイルケア	爪の構造を理解して、正しく消毒・ファイル・キューティクルクリーンができるようになる(相モデルにて)			仕上がりチェック			
第6回	ネイルカラー	キューティクルライン、サイド、エッジを意識し、ムラ無くネイルカラーをできるようにする(相モデルにて)			仕上がりチェック			
第7回	メイクアップ基礎 ベースメイク アイブロウ	骨格や顔の立体感について学びローライトハイライトを入れる事が出来るようなる 骨格にあったアイブロウを描けるようになる			パーティメイクの切り抜き提出日			
第8回	メイクアップ基礎 アイメイク リップメイク	モデルの目の形(一重、二重、奥二重)に合わせたアイメイクができるようになる モデルのリップラインに合わせた魅力的なリップメイクをする事が出来る						
第9回	パーティメイク実践 30分にて	相モデルの骨格やパーソナルカラーを分析し、パーティにふさわしいメイクを30分で行う事が出来るようになる フィードバックをもらい改善点を見つける。						
第10回	パーティメイク実践 20分にて	相モデルの骨格やパーソナルカラーを分析し、パーティにふさわしいメイクを20分で行う事が出来るようになる フィードバックをもらい改善点を見つける。			仕上がりチェック			
第11回	パーティ用ヘアアレンジ	ヘアアレンジ基礎で学んだ事を活かし、モデルの骨格とドレスに合うパーティヘアを作ることができるようになる			パーティ用ヘアの切り抜き提出日			
第12回	ネイルカラー～パーティメイク～パーティヘア	ネイルカラー、メイクアップ、ヘアアレンジのトータルコーディネートを行い、全体バランスを確認し改善点を見つける。			仕上がりチェック			
第13回	ネイルカラー～パーティメイク～パーティヘア	ネイルカラー、メイクアップ、ヘアアレンジのトータルコーディネートを行い、全体バランスを確認し改善点を見つける。			仕上がりチェック			
第14回	ネイルカラー～パーティメイク～パーティヘア	ネイルカラー10分 メイクアップ 20分 ヘアアレンジ5分の時間内で実施出来るようになる			仕上がりチェック			
第15回	ネイルカラー～パーティメイク～パーティヘア	ネイルカラー10分 メイクアップ 20分 ヘアアレンジ5分の時間内で実施出来るようになる			仕上がりチェック			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点～70点
授業態度			○				10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	サービス接遇特論		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	座学・ロールプレイングを取り入れた授業 正しい敬語美容業界で働くにあたり必要な心構えと接客力を身につける、サービス接遇を通し、理解を深める。							
授業の一般目標	サービス接遇検定2級・準1級取得							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	サービス接遇検定2級公式テキスト サービス接遇検定準1級テキスト							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明と検定要項の確認				準1級試験対策		
第2回	接客ロールプレイング	接遇者としての基本言動(言葉使い、所作)ができる				準1級試験対策		
第3回	接客ロールプレイング	接遇者としての基本言動(言葉使い、所作)ができる				準1級試験対策		
第4回	接客ロールプレイング	接遇者としての基本対応ができる				準1級試験対策		
第5回	接客ロールプレイング	接遇者としての基本対応ができる				準1級試験対策		
第6回	接客ロールプレイング	接遇者としての基本対応ができる				準1級試験対策		
第7回	接客ロールプレイング	接遇者としての基本対応ができる				準1級試験対策		
第8回	接客ロールプレイング	模擬面接実施				準1級試験対策		
第9回	接客ロールプレイング	模擬面接実施				準1級試験対策		
第10回	2級対策授業	2級試験範囲復習				2級試験対策		
第11回	2級対策授業	2級試験範囲復習				2級試験対策		
第12回	模擬試験	検定試験直前対策、2級合格のポイントを押さえる				2級試験対策		
第13回	模擬試験	検定試験直前対策、2級合格のポイントを押さえる				2級試験対策		
第14回	サービス接遇検定答え合わせ	2級試験範囲復習						
第15回	期末試験実施	期末試験実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点～70点
授業態度			○				10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	基本IT技術		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必須		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	① WindowsとWord2007の基本操作について ② Wordの機能についての理解と利用 ③ Excelの基本的な操作方法や表の作成・編集 ④ 関数についての理解とグラフの作成 ⑤ 文書校正機能やワークシートの操作について							
授業の一般目標	Windows、Word・Excelの基礎を学び、文書や表などを作成・編集できるようにする。 機能について理解をし、活用できるようにする。 必要な式の作成、考え方を学び、適切な式を入力できるようにする。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	授業のオリエンテーション	授業に関する説明と注意事項、アンケート 課題提出用メールアドレスの取得とWindowsの基礎について						
第2回	授業の準備とWordの基礎	課題提出用メールアドレスの取得（欠席者と未取得者） Wordの画面の名称と機能						
第3回	Wordの基本	漢字の変換・文節、読みのわからない漢字の挿入方法 ビジネス文書の構成について						
第4回	ページと書式の設定	ページ設定と書式設定						
第5回	行・段落の設定	段落番号・行間・インデントなどの設定						
第6回	表とヘッダー・フッター	表の挿入・編集とヘッダーフッターの設定						
第7回	オブジェクトの挿入・編集	ワードアートや図形、 図やテキストボックスに対する操作						
第8回	Word総合問題	P検3級Word実技問題に順守した問題						
第9回	Excelの基礎	画面の名称や働き、演算子やオートフィル機能について						
第10回	Excelの基本	コピー・移動、関数について（合計を求める）						
第11回	オートSUMボタンを利用した関数	平均、最大・最小値の求め方と表の書式設定。 オートSUMボタンでの設定方法						
第12回	絶対参照と関数の利用	相対参照と絶対参照について 関数の挿入ボタンを利用した関数の入力（セルの個数）						
第13回	グラフの作成と編集	グラフの挿入とグラフの書式設定						
第14回	ページ設定とデータベース機能	ページ設定と表示モードの変更、文書校正について データの並べ替え						
第15回	ワークシートの操作と総合問題	ワークシートに関する設定とP検3級に遵守した Excelの総合問題						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点～70点
授業態度			○				10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	実務経験紹介							

科目名	キャリアデザイン	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	選択	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	就職活動のための、キャリアガイダンス 1.自己分析 2.プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につける 3.仕事を知る							
授業の一般目標	1.自分を知る事で「やりたい事」「出来る事」「将来像」を明確にしていく。 2.希望する企業にしっかり想いが伝えられるよう、プレゼンテーション能力を身につける。 3.社会人として必要なコミュニケーション能力を身につける							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	YICオリジナル教材							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点	自己PRを簡潔に伝えることができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備考			
第1回	オリエンテーション	就職活動について 就活の流れ・シラバス・NAV I ノートの説明 自己紹介・就職先希望調査・リクルートスーツ着用時の注意点						
第2回	職業適性テスト	就職ガイダンス・職業適性テスト						
第3回	自己分析Ⅰ	自己分析「過去の振り返り・ネガポジマップ」他己分析「他人から見た自分を知る」						
第4回	職業適性テスト②	職業適性テスト結果返却・解説						
第5回	自己分析Ⅱ・説明会での所作	説明会参加時のマナーについて 自己PR作成(自己分析+他己分析+客観的データより作成)						
第6回	自己分析Ⅲ	自己PR完成後、発表						
第7回	企業研究	グループで1社企業研究・発表資料作成						
第8回	企業研究(発表)	グループごとに企業研究結果の発表						
第9回	生活設計講話	生活設計・家計管理について						
第10回	合同企業説明会所作・マナー	合同企業説明会事前練習、所作、マナーについて						
第11回	合同企業説明会	Y I C 京都合同企業説明会(京都テルサ)						
第12回	就職情報サイト登録	マイナビ活用術						
第13回	履歴書の書き方 自己PR エントリーシート	履歴書・エントリーシートの書き方・注意点						
第14回	模擬面接	グループディスカッション・グループ面接						
第15回	模擬面接	期末テスト						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		60	秀(S):100点~90点
小テスト							評価なし	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点~70点
授業態度			○				20	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	プレゼンテーション			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	選択			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	「仕事の実践」の知識を活かしながら、プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、プレゼンテーションの基本的な知識を修得し、さまざまな場面で自分の考えをしっかりと相手に伝える積極的な意思表示ができるようになる。							
授業の一般目標	プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を学ぶ。 プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に、話し方などの口頭表現、身体表現を中心とした演習を行なう。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	YIC京都オリジナルテキスト							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点	自ら考えたサロンのプレゼンテーションができるようになる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション	授業のルール・プレゼンテーションとは						
第2回	プレゼンテーションの目的	プレゼンテーションの種類・目的の明確化・情報収集の重要性						
第3回	プレゼンテーション準備と流れ1	聞き手の分析や主張の明確化、プラン作成やツールについて						
第4回	聴衆に好感を持たれる話し方の基本	聴衆に好感を持たれる話し方の基本を学ぶ					小テスト	
第5回	ストーリーの構成	序論・本論・結論について						
第6回	説得力のある伝え方	SDS法・PREP法・DESC法について						
第7回	自己紹介文作成	SDS法・PREP法・DESC法を用いた自己PR文の作成・発表						
第8回	感動を創造する伝え方	感情を込めた伝え方・感動エピソード発表					小テスト	
第9回	プレゼンテーション	テーマに沿ってプレゼンテーション発表 聞き手はチェックシートを用い、発表の仕方、内容をチェックする						
第10回	事業計画書の作成①	サロンコンセプト・ターゲット層・メニューの作成						
第11回	事業計画書の作成②	チラシ・プレゼン資料作成						
第12回	プレゼンテーション準備	最終準備・発表練習						
第13回	事業計画書に沿ったプレゼンテーション(テスト)	プレゼンテーション発表 聞き手はチェックシートを用い、発表の仕方、内容をチェックする						
第14回	事業計画書に沿ったプレゼンテーション(テスト)	プレゼンテーション発表 聞き手はチェックシートを用い、発表の仕方、内容をチェックする						
第15回	期末試験	筆記テスト						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、小テスト10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B): 79点～70点
授業態度			○				10	可(D): 69点～60点
発表・作品					◎		評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	硬筆書写Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ビューティ業界に必要な美しい手書き文字を身に付け、お客様への手紙、商談のメモ等、字で信頼して頂くために、硬筆書写の基礎的な技術及び知識をもって書くことが出来るようになる。(							
授業の一般目標	お客様への手紙や案内などを美しくバランスよく描くことができる。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	硬筆書写技能検定4級合格のポイント							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる							
☐ 関心・意欲の観点	次をりっぱに書くということに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
☐ 態度の観点	日常生活の中で書写について主体的に考えることができる							
☐ 技能・表現の観点	縦書き・横書きをバランスよく描くことができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	オリエンテーション		美しい文字を書く基本を学ぶ。用具、テキスト、ドリルの活用方法、学習計画が理解できる					
第2回	速書き		一定の時間内に、一定の文章を書き終える事ができる					
第3回	漢字と平仮名を大きく書く		5～6字くらいの語句を、2.5センチのますめに1字ずつ書くことができる					
第4回	縦書き(漢字と仮名交じり文)		ボールペン・サインペンで40字ほどの感じ仮名交じり文を、行の幅1.7センチの縦けいのあるところに楷書で書くことができる					
第5回	横書き(漢字仮名交じり文)		片仮名、数字、ローマ字が混ざっている55字ぐらいの文を、横書きで書くことが出来る					
第6回	簡単な掲示を書く		10字ぐらいの短い文を、わくの中に適当な位置に大きさ・太さに留意しながら書くことができる					
第7回	教育漢字と仮名の筆順		多く用いられる平易な漢字の点画、筆順を正しく字形を整えて書くことが出来る					
第8回	過去問題実施 模擬試験の実施①		硬筆書写検定4級受験を想定し模試を実施					
第9回	過去問題実施 模擬試験の実施②		硬筆書写検定4級受験を想定し模試を実施					
第10回	速書き		一定の時間内に、一定の文章を美しく正しく書き終える事ができる					
第11回	漢字(楷・行)を大きく書く		漢字の楷書と行書の基本を理解し書くことができる					
第12回	縦書き(漢字と仮名交じり文)		ボールペン・サインペンで45字ほどの漢字仮名交じり文を、行の幅1.7センチの縦けいのあるところに行書で書くことができる					
第13回	横書き(漢字仮名交じり文)		片仮名、数字、ローマ字が混ざっている60字ぐらいの文を、感じは楷書で、数字やローマ字は似合うもので横書きで書くことが出来る					
第14回	添え状、履歴書、お礼状の作成①		添え状、履歴書、お礼状を書く上での留意点を学び実際に作成する					
第15回	添え状、履歴書、お礼状の作成①		添え状、履歴書、お礼状を書く上での留意点を学び実際に作成する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物と授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		70	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B): 79点～70点
授業態度			○				10	可(D): 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	論理的思考力基礎		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	日常生活に関する題材を取り上げ、現状認識、問題発見をつかさどる把握力、定量分析、定性分析に発展させる分析力、意思決定、情報を研ぎ澄ませる選択力、シュミレーション能力を磨くための予測力、プレゼンテーション能力を発揮できる表現力の基礎を学ぶ。							
授業の一般目標	身近な問題を解くことを通して、読解力・把握力・分析力・選択力・予測力・表現力を養う。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション・数学基礎学力テスト	授業の進め方・評価の方法について 数学基礎力試験（数学検定試験）						
第2回	速さの基礎	速さの定義・秒速・分速・時速・速さと距離時間の関係の復習。速さを求める。						
第3回	旅人算・流水算	動くものが2つあるとき、2つのものの隔たりの推移に関する問題を解く。						
第4回	割合の基礎	単位の換算・百分率と歩合・濃度の計算（重量パーセントからモル濃度）						
第5回	損益算	売買による損益に関する計算。原価（仕入れ値）・定価・売価（売り値）・利益の間の関係、特に利益率・値引率の割合の意味を理解し問題を解く。						
第6回	仕事算	単位日数や単位時間にできる仕事の量や仕上げるのにかかる日数や時間を求める。						
第7回	計算の基礎・虫食い算	四則計算・四則混合計算・Xを使う式・連立方程式を解く						
第8回	順列・確立	順列・確立の基本的な考え方と保険・銀行の融資（ゆうし）・株式市場の分散投資について学ぶ						
第9回	集合	集合と要素・部分集合・空集合・関集合・和集合・全体集合・補集合について学ぶ。						
第10回	推理	リーグ戦の勝敗・対応関係・うそつき問題を解く						
第11回	面積・体積	平行四辺形の面積・三角形の面積・台形の面積・ひし形の面積・円の面積・柱体の体積・錐体の体積を求める						
第12回	展開図	直方体・立方体・その他の図形の展開図から、体積・表面積を求める						
第13回	把握力と分析力	業界シェアの動向・所得税を求める						
第14回	選択力と予測力	最適な通勤ルートはどれか・来月の売上予想はいくらを求める。						
第15回	表現力	売上高を棒グラフで表す・データ分布のヒストグラムは						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物・授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B): 79点～70点
授業態度			○				10	可(D): 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ビジネス英語		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	サロンでの対応について色々な場面で会話を学ぶ。授業は簡単な会話を中心としビューティ分野に必要な表現も併せて学ぶ。							
授業の一般目標	英語でのコミュニケーションができるようになるのが目標。中学1、2年で学ぶ内容をカバーしながら、英語で基本的なやり取りができる力を身につける。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点	英語で受付からご案内までできる 英語で自己紹介ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備考		
第1回	事前テストの実施	英単語、レベルチェック						
第2回	Nice to meet you	自己紹介ができる。 初対面の挨拶ができる。						
第3回	How' re you this morning?	相手の調子を尋ねたり、自分の調子を言うことができる。あいづちを打つことができる。						
第4回	What do you do in your free time?	余暇の過ごし方について尋ねたり、答えたりすることができる。種類を尋ねたり、答えたりすることができる。						
第5回	Where' re you from?	天気的话题をきっかけに見知らぬ人と会話を始めることができる。出身地を尋ねたり、答えたりすることができる。						
第6回	How much is it?	値段を尋ねたり、答えたりすることができる。 数字を正しく言えることができる。						
第7回	May I have your name,please?	受付で約束があることを伝えることができる。 位置を表す表現を使うことができる。						
第8回	Where' s the nearest bookstore?	道を尋ねたり、答えたりすることができる。						
第9回	How was your weekend?	趣味について尋ねたり、答えたりすることができる。						
第10回	Nice talking with you.	自然に会話を終わらせることができる。 色々な別れの挨拶をすることができる。 別れの挨拶に返答することができる。						
第11回	Hou about some paperbacks?	第三者の誕生日や好きなことを尋ねたり、答えたりすることができる。 提案する表現が使える。 月や日付を正しく言えることができる。						
第12回	Do you have a fitness center?	Haveを使って設備やサービスについて質問できる。 序数を使って何階かを伝えることができる。 Inやnext toをつかって場所を伝えることができる。						
第13回	業務内で想定される会話	ビューティ業界に就職し、海外のお客様をお迎えした際想定される会話の実践						
第14回	色々な場面の会話	自分が伝えたい事を英語で伝えられるようになる						
第15回	振り返りテストとE C P Tテストの実施	期末試験実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B): 79点～70点
授業態度			○				10	可(D): 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ビジネスマネジメント		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	管理職(マネジャー)は、企業と社員の結節点として、“経営ビジョンの浸透”や“事業戦略の策定・遂行”、“チームのモチベーションの向上”、“人材育成”などの多様な重要な役割を担っています。まさに企業の浮沈の鍵を握る要の存在です。この授業ではマネジメント知識を学び社会人基礎力を高めます。							
授業の一般目標	ビジネスマネジメント検定取得							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる							
□ 関心・意欲の観点	管理職として直面する事項に関心を広げ、問題意識を高めることができる							
□ 態度の観点	日常生活の中でマネジメントについて主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容		備 考			
第1回	マネージャーの役割と心構え		マネージャーが直面するビジネス環境					
第2回	マネージャーの役割と心構え		マネージャーに求められるミッションと5つの役割					
第3回	マネージャーの役割と心構え		マネージャーの資質					
第4回	マネージャーの役割と心構え		マネージャーの心得					
第5回	人と組織のマネジメント		マネージャー自身のマネジメント					
第6回	人と組織のマネジメント		コミュニケーションの重要性					
第7回	人と組織のマネジメント		部下のマネジメント 上司・外部とのコミュニケーション					
第8回	人と組織のマネジメント		人財育成と人事考課 チームのマネジメントと企業組織論					
第9回	業務のマネジメント		経営計画 事業計画の策定					
第10回	業務のマネジメント		マネージャーに求められる業務のマネジメント					
第11回	業務のマネジメント		成果の検証と問題発見及びその解決 経営にかかわる基礎知識					
第12回	リスクのマネジメント		リスクマネジメントの考え方とその実践					
第13回	リスクのマネジメント		職場・業務にかかわるリスクマネジメント					
第14回	リスクのマネジメント		組織にかかわるリスクマネジメント 事故災害時にかかわるリスクマネジメント					
第15回	期末試験の実施		期末試験実施					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○						秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎					優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎				良(B): 79点～70点
授業態度			○					可(D): 69点～60点
発表・作品								不可(E):59点以下
演習								
出席			○					
担当教員				実務経験紹介				

科目名	インターンシップⅠ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	業界研究で得た知識をもとにインターンシップ依頼、インターンシップリテラシーを学び、事前準備学習を行う。インターンシップを通じて得た経験を体験報告をレポートにまとめ、報告書を作成する。							
授業の一般目標	1. 自らの専攻やキャリアに関連した就業体験によって高い職業意識を育成する 2. 実社会に触れる事によって学習意欲を向上させる 3. 人間性を高め、基本的な生活習慣を身に付ける							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	ビューティ業務全般を説明できる							
☐ 思考・判断の観点	結婚式や披露宴において必要な準備や手順がわかる							
☐ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる							
☐ 態度の観点	日常生活の中でビューティ関連企業について主体的に考えることができる							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備考		
第1回	実務研修の心構え	インターンシップの目的、参加の心構え、ビジネスマナー講習などを中心に、事前準備学習を行なう。						
第2回	実務研修の依頼	就職を希望する企業・サロンの調査法。インターンシップの依頼（電話・依頼文作成）、企業等とのマッチング、日程調整						
第3回	挨拶状・レポート作成	受け入れ企業の決定に基き必要書類などの作成を行いインターンシップを有意義なものにする						
第4回	実務研修	受入れ事業所で就業体験（実習日誌）						
第5回								
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回	インターンシップ報告会	インターンシップを通じて得た知見や経験を受講者全員で共有化することを目的に体験報告を行なう。それぞれが就業体験を通じて得たものを自己定着させる。また、体験報告をレポートにまとめ、インターンシップ報告書を作成する。						
第15回								
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 研修内容に関するレポート提出、準備姿勢、研修に取り組む姿勢に、出席点を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀(S):100点～90点
小テスト								優(A):89点～80点
宿題授業外レポート	◎	◎	○	◎			30	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			15	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習	◎	○	◎				55	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	インターンシップⅡ			単位数	1	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	業界研究で得た知識をもとにインターンシップ依頼、インターンシップリテラシーを学び、事前準備学習を行う。インターンシップを通じて得た経験を体験報告をレポートにまとめ、報告書を作成する。							
授業の一般目標	1. 自らの専攻やキャリアに関連した就業体験によって高い職業意識を育成する 2. 実社会に触れる事によって学習意欲を向上させる 3. 人間性を高め、基本的な生活習慣を身に付ける							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	ビューティ業務全般を説明できる							
□ 思考・判断の観点	結婚式や披露宴において必要な準備や手順がわかる							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる							
□ 態度の観点	日常生活の中でビューティ関連企業について主体的に考えることができる							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	実務研修の心構え		インターンシップの目的、参加の心構え、ビジネスマナー講習などを中心に、事前準備学習を行なう。					
第2回	実務研修の依頼		就職を希望する企業・サロンの調査法。インターンシップの依頼（電話・依頼文作成）、企業等とのマッチング、日程調整					
第3回	挨拶状・レポート作成		受け入れ企業の決定に基き必要書類などの作成を行いインターンシップを有意義なものにする					
第4回	実務研修		受入れ事業所で就業体験（実習日誌）					
第5回								
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回	インターンシップ報告会		インターンシップを通じて得た知見や経験を受講者全員で共有化することを目的に体験報告を行なう。それぞれが就業体験を通じて得たものを自己定着させる。また、体験報告をレポートにまとめ、インターンシップ報告書を作成する。					
第15回								
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 研修内容に関するレポート提出、準備姿勢、研修に取り組む姿勢に、出席点を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀(S):100点～90点
小テスト								優(A):89点～80点
宿題授業外レポート	◎	◎	○	◎			30	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			15	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習	◎	○	◎				55	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	サロン運営Ⅰ		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	・ 現場実習・スチューデントサロンを計画し実施する							
授業の一般目標	・ 実際の現場で臨機応変に行動ができる ・ お客様に満足していただける施術内容を考えて施術ができる ・ サロン運営の企画・運営を組織の一員として積極的に参加し、目標とした課題を達成する事ができる							
受講条件	出席率80％以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1週	オリエンテーション		スチューデントサロンを行う目的を理解し、他の授業との関連性を理解する サロンを運営する上での準備項目を共有認識する					
第2週	サロン運営の概要決定		サロン運営をする上でのタイムスケジュールを決定する 準備物の確認をする 役割分担を決定する メニューを決定する 企画書を作成する					
第3週	サロン運営の広告方法とは		広告方法を考える DMの内容、ブログ、HPの内容を考える					
第4週	サロン運営準備物の作成		サロンの一連の流れを考え、決定する 接客対応のシミュレーションを実施					
第5週	技術練習		サロンメニューの技術練習を行う					
第6週	技術練習		サロンメニューの技術練習を行う					
第7週	サロン運営		サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる					
第8週	サロン運営		サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる					
第9週	サロン運営		サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる					
第10週	サロン運営		サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる					
第11週	サロン運営		サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる					
第12週	サロン運営		サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる					
第13週	サロン運営		サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる					
第14週	振り返り実施		サロン運営についての振り返り実施、改善点を話し合う					
第15週	期末試験		期末試験実施					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80％以上 期末試験70％、日報10％、レポート10％、サロン貢献度10％を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B): 79点～70点
授業態度			○				10	可(D): 69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	サロン運営Ⅱ		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	・ 現場実習・スチューデントサロンを計画し実施する							
授業の一般目標	・ 実際の現場で臨機応変に行動ができる ・ お客様に満足していただける施術内容を考えて施術ができる ・ サロン運営の企画・運営を組織の一員として積極的に参加し、目標とした課題を達成する事ができる							
受講条件	出席率80％以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1週	オリエンテーション		スチューデントサロンを行う目的を理解し、他の授業との関連性を理解する サロンを運営する上での準備項目を共有認識する					
第2週	サロン運営の概要決定		サロン運営をする上でのタイムスケジュールを決定する 準備物の確認をする 役割分担を決定する メニューを決定する 企画書を作成する					
第3週	サロン運営の広告方法とは		広告方法を考える DMの内容、ブログ、HPの内容を考える					
第4週	サロン運営準備物の作成		準備物の作成を行う DMの作成を行う サロンの一連の流れを考え、決定する					
第5週	接客応対について考える		接客応対のシュミレーションを実施			DM発送 HP、ブログUP		
第6週	技術練習		サロンメニューの技術練習を行う					
第7週	サロン運営		サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる					
第8週	サロン運営		サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる					
第9週	サロン運営		サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる					
第10週	サロン運営		サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる					
第11週	サロン運営		サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる					
第12週	サロン運営		サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる					
第13週	サロン運営		サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる					
第14週	サロン運営		サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる					
第15週	振り返り実施		サロン運営についての振り返り実施、改善点を話し合う					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80％以上 成績点70％、提出物＆授業態度点20％、出席点10％を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S)：100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A)：89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B)：79点～70点
授業態度			○				10	可(D)：69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E)：59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	サロン運営Ⅲ		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	・ 現場実習・スチューデントサロンを計画し実施する							
授業の一般目標	・ 実際の現場で臨機応変に行動ができる ・ お客様に満足していただける施術内容を考えて施術ができる ・ サロン運営の企画・運営を組織の一員として積極的に参加し、目標とした課題を達成する事ができる							
受講条件	出席率80％以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1週	オリエンテーション	スチューデントサロンを行う目的を理解し、他の授業との関連性を理解する サロンを運営する上での準備項目を共有認識する						
第2週	サロン運営の概要決定	サロン運営をする上でのタイムスケジュールを決定する 準備物の確認をする 役割分担を決定する メニューを決定する 企画書を作成する						
第3週	サロン運営の広告方法とは	広告方法を考える DMの内容、ブログ、HPの内容を考える						
第4週	サロン運営準備物の作成	準備物の作成を行う DMの作成を行う サロンの一連の流れを考え 決定する						
第5週	接客応対について考える	接客応対のシュミレーションを実施				DM発送 HP、ブログUP		
第6週	技術練習	サロンメニューの技術練習を行う						
第7週	サロン運営	サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる						
第8週	サロン運営	サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる						
第9週	サロン運営	サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる						
第10週	サロン運営	サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる						
第11週	サロン運営	サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる						
第12週	サロン運営	サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる						
第13週	サロン運営	サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる						
第14週	サロン運営	サロン運営 ・組織の一員としてスチューデントサロン運営に積極的に参加する事ができ、目標を達成するために反省と修正ができる ・お客様に満足していただける施術と接客ができる						
第15週	振り返り実施	サロン運営についての振り返り実施、改善点を話し合う						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80％以上 成績点70％、提出物と授業態度点20％、出席点10％を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S)：100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A)：89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B)：79点～70点
授業態度			○				10	可(D)：69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E)：59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	イベントプロデュース		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。 イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。							
授業の一般目標	イベントの企画から実際にイベント運営を体験し、制作ノウハウを身につける。 自分達の考えたイベントが来場者にどう評価されたかを調査・分析し、グループワークで各自が役割に対する責務を果たし、チーム全体の力を発揮することができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	ベント活動の意義や運営の仕方を理解し、説明ができる							
☐ 思考・判断の観点	イベントの企画や目的を考え、工夫ができる							
☐ 関心・意欲の観点	ほりかわ祭実行に向け、意欲を高め団結力・協調性を高める							
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
イベントの企画から運営を学び、実践し協調性や社会人基礎力を身に着ける事ができる								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	授業ガイダンス		2020年度のイベントについて					
第2回	イベントとは?		イベントの意義について					
第3回	イベントの目的		イベントには、必ず実施する側に明確な「目的」があって、その手段として行える					
第4回	プランニングと運営について		プランニング（計画生）の重要性と運営について覚える					
第5回	イベント企画会議(1)		実際の行事のの企画会議を実施する。（ほりかわ祭）					
第6回	イベント運営のグループワーク(1)		イベント運営とグループワーク（ほりかわ祭）					
第7回	具体的なイベント運営のシミュレーション(1)		運営シュミレーション（ほりかわ祭）					
第8回	イベント運営の実際(1)		ほりかわ祭について（1）					
第9回	イベントプロデュースの分析と展望（1）		ほりかわ祭について（2）					
第10回	イベント企画会議(2)		実際の行事のの企画会議を実施する。（就職egg）					
第11回	イベント運営のグループワーク(2)		イベント運営とグループワーク(就職egg)					
第12回	具体的なイベント運営のシミュレーション(2)		運営シュミレーション(就職egg)を行う					
第13回	イベント運営の実際(2)		就職eggについて（1）					
第14回	イベントプロデュースの分析と展望（2）		就職eggについて					
第15回	まとめ		まとめ					
成績評価方法								
単位認定 60点以上 各イベントの参加状況・運営・実施状況にて総合判断								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀（S）：100点～90点
小テスト							-	優（A）：89点～80点
宿題授業外レポート							-	良（B）：79点～70点
授業態度	○		○	◎			30	可（D）：69点～60点
発表・作品	○	◎	○		◎		40	不可（E）:59点以下
演習							-	
出席			◎	◎			30	
担当教員	担任			実務経験紹介				

科目名	企業研究	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	婚礼会場はどのような場所にあるのか、そこではどのような仕事があるのか、関連業種などについて調べる。インターンシップの事前学習も行う。 ブライダル業界をブレ・当日、新生活部分に分けて様々な角度から検討し、理解を深める。							
授業の一般目標	ブライダル業界を調べる事によって業界内の様々な職種を知る。また、そこで求められる人物像、知識などを各自が明確にイメージすることによって学習意欲を高める。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	就活ナビノート							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. ブライダル業界とは何かについて説明できる。 2. ブライダル業界の各領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げたブライダル関連企業について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	ブライダルに関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中でブライダル業界について主体的に考えることができる							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	ガイダンス	美容業界の関連企業はどのようなものがあるか理解する						
第2回	業界企業の特徴①	上場、未上場、親会社が他業種などブライダル企業の現在を知る						
第3回	企業の特徴②	グループワークでブライダル企業を調べる						
第4回	業界調査 発表	前回調べた企業を発表する						
第5回	企業研究①	企業理念、社長について、沿革、事業展開、企業のカルチャー						
第6回	企業研究②	企業理念、社長について、沿革、事業展開、企業のカルチャー						
第7回	企業研究③	企業理念、社長について、沿革、事業展開、企業のカルチャー						
第8回	企業研究④	企業理念、社長について、沿革、事業展開、企業のカルチャー						
第9回	企業研究⑤	企業理念、社長について、沿革、事業展開、企業のカルチャー						
第10回	企業研究⑥	企業理念、社長について、沿革、事業展開、企業のカルチャー						
第11回	インターンシップについて	インターンシップ先での働き方やマナーについて						
第12回	インターンシップについて	インターンシップ先での働き方やマナーについて						
第13回	インターンシップ先の企業研究	インターンシップ先の企業研究						
第14回	まとめとインターンに向けての心構え	これまでのまとめとその業界に求められる人物像などについてディスカッションを行う						
第15回	まとめとインターンに向けての心構え	インターンシップの事前学習、お礼状や履歴書の準備など						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点(レポート・小テスト)70%、授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	◎	◎	○	○			40	B(2):70点以上
授業態度			○	○			20	C(1):60点以上
発表・作品		○	○				10	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	実務経験紹介							

科目名	企業研修		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	内定者・新入社員向け研修。 社会人基礎力を学生の間に身に付け、就職してから即戦力となる人材を目指す							
授業の一般目標	社会人としての一般常識の習得。 円滑なコミュニケーションスキルを身に付け自ら考え行動できるようになる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	ビジネスに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1週	ビジネスマナー研修		ビジネスマナーとは					
第2週	敬語・ビジネス用語の使い方		ビジネス用語と敬語の使い方について					
第3週	ビジネス基礎研修		学生から社会人絵の意識と行動改革					
第4週	ビジネス文章研修		ビジネス文章作成の基本					
第5週	ビジネスメール研修		メールの構造・作成のポイント、注意点					
第6週	ロジカルシンキング研修		論理的であることの定義、情報を整理し、結論を導く					
第7週	コミュニケーション研修		ホウ・レン・ソウの重要性と目的					
第8週	電話対応研修		電話対応における心構えと基本スキル					
第9週	仕事の進め方研修		チームワークとコミュニケーション					
第10週	対人関係構築研修		対人関係に役立つテクニック					
第11週	メンタルヘルス研修		ストレスへの対処法					
第12週	企画力アップ研修		発想の出し方・企画書作成について					
第13週	プレゼンテーション研修		伝える技術を身に付ける					
第14週	プレゼンテーション研修		プレゼンテーションの実践					
第15週	期末テスト		期末テスト					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点～70点
授業態度			○				10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ボランティア活動		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1・2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を講義する。ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を学習した後に、学生の主体的な計画の下にボランティア活動を体験する。							
授業の一般目標	ボランティアの理念を説明できる。ボランティア活動の基本原則を説明できる。実際のボランティア活動を説明できる。ボランティア活動参加の意義を説明できる。ボランティア活動に参加する。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ボランティアの理念	(無償性、自主性、公益性)						
第2回	ボランティア活動の基本原則	自分からすすんで行動する—とともに支え合い—学び合う「見返りを求めないよりよい社会をつくるを学ぶ						
第3回	実際のボランティア活動	実際のボランティア活動について話し合う						
第4回	ボランティア参加の意義	ボランティア活動は、他人同士がいろいろな場でふれあい、つながりを持ち、お互いに学びあって生きる喜びを確かめ合う機会を与えるものであることを確認する						
第5回	自分にあったボランティア活動は?	自分にあったボランティア活動について考察する。						
第6回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第7回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第8回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第9回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第10回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第11回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第12回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第13回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第14回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第15回	振り返り	レポート作成						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					20	S(4):90点以上
小テスト							評価なし	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2):70点以上
授業態度			○	◎			30	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習					◎		50	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ソーシャルメディア活用概論			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	SNSの特長を理解してSNS運用の課題を明確にする							
授業の一般目標	ソーシャル・メディアの必要性やSNSの活用ポイントを理解し、マーケティング、広報活動ができるようになる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	SNSに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中でSNSについて主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	ソーシャルメディアとは			ソーシャルメディアの必要性について				
第2回	SNSの特徴について			Instagram・Twitter・Facebookの特性				
第3回	SNS運用のルール①			Instagram・Twitter・Facebookのそれぞれの運用について				
第4回	SNS運用のルール②			各SNSの事例から学ぶ				
第5回	SNS発信①			読まれる発信と読まれない発信の違い				
第6回	SNS発信②			SNSでお客様を集める具体策				
第7回	SNSコンプライアンス①			SNSとコンプライアンス				
第8回	SNSコンプライアンス②			SNSの炎上の原因とは				
第9回	SNSコンプライアンス③			SNS炎上の予防策と対処法				
第10回	ソーシャルメディア活用			マーケティング戦略におけるSNSの位置づけ				
第11回	Instagram活用①			Instagram活用の基本・投稿のポイント				
第12回	Instagram活用②			インスタライブの活用法・ストーリーズの活用法				
第13回	Instagram活用③			ハッシュタグの活用・企業の事例に学ぶ				
第14回	Instagram活用④			Instagramアクセス解析の基本				
第15回	期末試験			期末試験				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○	○				60	S(4):90点以上
小テスト							10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2):70点以上
授業態度				○			10	C(1):60点以上
発表・作品					○		20	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席							欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

2021 ビューティスペシャリスト科 シラバス

発 行 YIC京都ビューティ専門学校

発行日 2021 年 4 月 1 日

編 集 学校法人京都中央学院

〒600-8236 京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町 27 番地

TEL 075-371-4040 FAX 075-343-3821

本便覧の複写および無断転載を禁ずる。